

平成32年国勢調査第1次試験調査 実施状況等報告書

目 次

I	調査の概要	1
II	調査票の集計結果	
第1	調査票の回収状況	13
第2	オンライン調査における回答状況	19
第3	調査票の記入状況	24
第4	オンライン調査における記入状況	32
III	世帯アンケートの集計結果	33
IV	民間事業者による郵送提出調査票受付の実施状況	45
V	都府県及び市区町における個別の事務処理の実施状況 (記録表の取りまとめ結果)	
第1	調査員記録表	49
第2	調査状況等記録表	55
第3	審査結果記録表	73

※ 「記録表の取りまとめ結果」は、調査員記録表、調査状況等記録表及び審査結果記録表に基づいたものであり、「調査票の集計結果」と一致しない場合がある。

平成29年12月
総務省統計局
統計調査部国勢統計課

I 調査の概要

第1 調査の目的

平成32年国勢調査実施計画の立案に当たり、調査環境の変化に対する的確に対応するための調査方法等必要な事項を実地に検証し、実施計画の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

第2 調査の地域

1 市区町

宮城県仙台市泉区，宮城県利府町，東京都港区，東京都北区，富山県富山市，富山県入善町，静岡県浜松市東区，静岡県小山町，滋賀県東近江市，滋賀県日野町，京都府京都市東山区，京都府精華町，岡山県岡山市南区，岡山県矢掛町，宮崎県宮崎市，宮崎県日向市（8都府県16市区町）

2 調査区

上記1の区域に属する平成27年国勢調査調査区の中から、地域特性を考慮して選定した312調査区

※ 調査区は、総務省統計局が指定する地域特性に該当する調査区を市区町が選定し、総務省統計局において他の統計調査の調査区との重複排除の調整を行った上で、総務省統計局長が決定

第3 調査の期日及び日程

- 1 調査の期日 平成29年7月13日（木）午前零時現在
- 2 調査の主要日程 別紙1参照

第4 調査の対象

調査の期日において、調査の地域内に常住する者
ただし、外国政府の外交使節団又は領事機関の構成員及び外国軍隊の軍人・軍属並びにこれらの家族を除く。

第5 調査事項及び調査票

調査区ごとに、2種類のOCR（光学式文字読取）調査票（調査票甲及び調査票乙）のいずれかを用いて、次の事項を調査した。（別紙2参照）

※ 下記2オについては、調査票甲でのみ調査する。

1 世帯員に関する事項（15項目）

- | | |
|-----------|-----------------|
| ア 氏名 | オ 配偶の関係 |
| イ 男女の別 | カ 国籍 |
| ウ 出生の年月 | キ 現在の住居における居住期間 |
| エ 世帯主との続柄 | ク 5年前の住居の所在地 |

ケ 在学，卒業等教育の状況
コ 就業状態
サ 従業上の地位
シ 所属の事業所の名称及び事業の種類

ス 仕事の種類
セ 従業地又は通学地
ソ 従業地又は通学地までの利用交通手段

2 世帯に関する事項（5項目）

ア 世帯の種類
イ 世帯員の数
ウ 住居の種類

エ 住宅の建て方
オ 住宅の床面積の合計

第6 調査の方法

1 調査の流れ

ア 基本系統

総務省－都府県－市区町－調査員（又は民間事業者(※)）－世帯

※ 世帯が居住する住居・施設等の管理者で，市区町から調査員業務の委託を受けた事業者

イ 総務省が指定する一部地域(以下，「特定共同住宅の調査区」という。)における系統

総務省－都－区－世帯

※ 東京都（港区及び北区）の指定調査区のうち，総務省が指定する「特定共同住宅の調査区」においては，区が世帯へ郵送等により調査票等を配布することができるものとする。

2 調査の方法

調査は，オンライン回答期間を調査員及び郵送提出の期間に先行して設定する方式（以下「オンライン調査先行方式」という。）を基本に，調査区ごとに次のいずれかの方法により実施した。

① オンライン調査先行方式（二段階配布型）

ア 調査員（民間事業者を含む。以下同じ。）は，担当する調査区内を巡回し，当該調査区の範囲を確認するとともに，『調査区要図』を作成する。

イ 『インターネット回答の利用案内』の配布期間（6月30日から5日間）に，調査員は，担当する調査区内の全世帯を訪問し，面接の上で『インターネット回答の利用案内』を配布するとともに，『調査世帯一覧』（以下「一覧」という。）を作成するために世帯主の氏名及び世帯員の総数を聴取し，一覧に必要な事項を記入する。

また，不在世帯については，日又は時間を変えて再度訪問することとするが，

それでも面接することができない世帯に対しては、『インターネット回答の利用案内』を郵便受けに入れるなどして配布する。

なお、面接することができない世帯の一覧に必要な事項及び男女別の世帯員の数については、オンライン回答は「回答状況確認表」より、郵送提出及び調査員提出は世帯から提出された調査票より記入する。

ウ 調査票配布期間前までの期間（6月30日から7月9日まで）は、世帯は、オンライン回答のみ行うことができる。

エ 調査員は、調査期日（7月13日）の3日前から前日までに担当する調査区内の全世帯に、『回答促進リーフレット』及び調査票等を郵便受けに入れるなどして配布する。世帯は、調査期日以降の所定の期間（7月19日まで）において、オンライン回答又は郵送により提出する方法のいずれかを選択し、回答を行うことができる。

オ オンライン回答・郵送提出期限（7月19日）以降、調査員は市区町から伝達された回答済世帯の情報により、回答が済んでいない世帯（以下「調査票未提出世帯」という。）を特定する。

カ 調査票回収期間（7月25日から8月1日まで）に、調査員は、上記オで特定した調査票未提出世帯を訪問し、面接の上で、調査票の提出状況を確認すると共に、調査員への提出を希望する世帯から、調査票を回収する。

キ 調査票回収期間以降、調査票未提出世帯があった場合、調査員は、次の方法により、当該世帯からの調査票の回収等を行う。

- ・ 調査票未提出世帯を訪問し、面接の上、調査票を回収する。調査票未提出世帯が不在の場合は、再度訪問するなどして世帯との面接に努める。
- ・ 世帯と面接できないなど、最終的に調査票の提出を直接依頼できない場合は、市区町に連絡の上、その指示に基づき、近隣の世帯等から協力を得て、氏名、男女の別及び世帯員の数の3項目を聴取し、調査票及び一覧への記入を行う（聞き取り調査）。
- ・ 聞き取り調査を行った世帯に対し、『督促状』及び調査票等を郵便受けに入れるなどとして配布する。

ク 調査員は、調査票等を整理の上、市区町に提出する。

※ 東京都港区及び東京都北区のみ、エ以降の調査方法を下記のとおりとする（ア～ウまで上記に同じ。）。

エ 調査員は、調査期日（7月13日）の3日前から前日までに担当する調査区内の全世帯に、『回答促進リーフレット』及び調査票等を郵便受けに入れるなどして配布する。世帯は、調査期日以降の所定の期間（7月19日まで）において、オンライン回答又は郵送により提出する方法のいずれかを選択し、回答を行うことができる。

なお、調査員への提出を希望する世帯は区等へ連絡し、区はその情報を調査員へ伝達することによって、当該世帯から調査票の回収を行う。

オ オンライン回答・郵送提出期限（7月19日）以降、調査員は区から伝達された回答済世帯の情報により、調査票未提出世帯を特定する。

カ 調査票未提出世帯があった場合、調査員は、次の方法により、当該世帯からの調査票の回収等を行う。

- ・ 調査票未提出世帯を訪問し、面接の上、調査票を回収する。調査票未提出世帯が不在の場合は、再度訪問するなどして世帯との面接に努める。
- ・ 世帯と面接できないなど、最終的に調査票の提出を直接依頼できない場合は、区に連絡の上、その指示に基づき、近隣の世帯等から協力を得て、氏名、男女の別及び世帯員の数の3項目を聴取し、調査票及び一覧への記入を行う（聞き取り調査）。
- ・ 聞き取り調査を行った世帯に対し、『督促状』及び調査票等を郵便受けに入れるなどして配布する。

キ 調査員は、調査票等を整理の上、区に提出する。

② オンライン調査先行方式（同時配布型）

ア 調査員は、担当する調査区内を巡回し、当該調査区の範囲を確認するとともに、『調査区要図』を作成する。

イ 調査書類の配布期間（6月30日から5日間）に、調査員は、担当する調査区内の全世帯を訪問し、面接の上で調査票等の調査書類一式を配布するとともに、一覧を作成するために世帯主の氏名及び世帯員の総数を聴取し、一覧に必要な事項を記入する。

また、不在世帯については、日又は時間を変えて再度訪問することとするが、それでも面接することができない世帯に対しては、『インターネット回答の利用案内』を郵便受けに入れるなどして配布する。

なお、面接することができない世帯の一覧に必要な事項及び男女別の世帯員の数については、オンライン回答は「回答状況確認表」より、郵送提出及び調

査員提出は世帯から提出された調査票より記入する。

ウ 調査期日までの期間（6月30日から7月12日まで）は、世帯は、オンライン回答のみ行うことができる。

エ 調査員は、調査期日（7月13日）の3日前から前日までに担当する調査区内の全世帯に、『回答促進リーフレット』を郵便受けに入れるなどして配布する。世帯は、調査期日以降の所定の期間（7月19日まで）において、オンライン回答又は郵送により提出する方法のいずれかを選択し、回答を行うことができる。

オ オンライン回答・郵送提出期限（7月19日）以降、調査員は市区町から伝達された回答済世帯の情報により、調査票未提出世帯を特定する。

カ 調査票回収期間（7月25日から8月1日まで）に、調査員は、上記オで特定した調査票未提出世帯を訪問し、面接の上で、調査票の提出状況を確認すると共に、調査員への提出を希望する世帯から、調査票を回収する。

キ 調査票回収期間以降、調査票未提出世帯があった場合、調査員は、次の方法により、当該世帯からの調査票の回収等を行う。

- ・ 調査票未提出世帯を訪問し、面接の上、調査票を回収する。調査票未提出世帯が不在の場合は、再度訪問するなどして世帯との面接に努める。
- ・ 世帯と面接できないなど、最終的に調査票の提出を直接依頼できない場合は、市区町に連絡の上、その指示に基づき、近隣の世帯等から協力を得て、氏名、男女の別及び世帯員の数の3項目を聴取し、調査票及び一覧への記入を行う（聞き取り調査）。
- ・ 聞き取り調査を行った世帯に対し、『督促状』及び調査票等を郵便受けに入れるなどして配布する。

ク 調査員は、調査票等を整理の上、市区町に提出する。

※ 東京都港区及び東京都北区のみ、エ以降の調査方法を下記のとおりとする（ア～ウまで上記に同じ。）。

エ 調査員は、調査期日（7月13日）の3日前から前日までに担当する調査区内の全世帯に、『回答促進リーフレット』を郵便受けに入れるなどして配布する。世帯は、調査期日以降の所定の期間（7月19日まで）において、オンライン回答又は郵送により提出する方法のいずれかを選択し、回答を行うことができる。

なお、調査員への提出を希望する世帯は区等へ連絡し、区はその情報を調査員へ伝達することによって、当該世帯から調査票の回収を行う。

オ オンライン回答・郵送提出期限（7月19日）以降，調査員は区から伝達された回答済世帯の情報により，調査票未提出世帯を特定する。

カ 調査票未提出世帯があった場合，調査員は，次の方法により，当該世帯からの調査票の回収等を行う。

- ・ 調査票未提出世帯を訪問し，面接の上，調査票を回収する。調査票未提出世帯が不在の場合は，再度訪問するなどして世帯との面接に努める。
- ・ 世帯と面接できないなど，最終的に調査票の提出を直接依頼できない場合は，区に連絡の上，その指示に基づき，近隣の世帯等から協力を得て，氏名，男女の別及び世帯員の数の3項目を聴取し，調査票及び一覧への記入を行う（聞き取り調査）。
- ・ 聞き取り調査を行った世帯に対し，『督促状』及び調査票等を郵便受けに入れるなどして配布する。

キ 調査員は，調査票等を整理の上，区に提出する。

3 報告の方法

世帯主（世帯の代表者を含む。）又は世帯員が調査票に記入し，調査員の質問に答え，調査票を調査員又は市区町に提出することにより行う。

4 民間事業者による実査事務サポート

実査における地方公共団体の事務負担を軽減することを目的に，実査事務のうち，郵送提出された調査票に係る受付・整理及び提出状況の把握について民間事業者に委託して実施した。

第7 その他

第1次試験調査は，国勢調査令（昭和55年政令第98号）第15条第1項第6号及び第2項第8号に規定する「調査方法についての基礎調査」として実施した。

なお，調査の実施については，統計法に基づく一般統計調査として総務大臣の承認を得ている。

平成32年国勢調査第1次試験調査 主要日程

別紙 1

二段階配布方式

時期	世帯	調査員	市区町	都府県
5/16～5/17			事務打合せ会出席(統計局開催)	事務打合せ会開催(統計局開催)
6月中旬		調査員事務打合せ会出席	調査員事務打合せ会開催	調査員事務打合せ会出席
6/25～6/29		- 受持ち調査区の確認 『調査区要図』及び『調査世帯一覧』の作成 『調査についてのお知らせ』の配布(任意)		
6/30～7/4	オンライン回答開始	「インターネット回答の利用案内」(『インターネット回答利用ガイド』等を含む)の配布 『調査世帯一覧』の作成		
7/10～7/12	調査票の提出開始	調査票及び『回答促進リーフレット』の配布	(民間による第1次試験調査に係る支援) 『郵送提出用封筒』のQRコード読み取り、仕分け、梱包、市区町への発送(～8月上旬)	
7/13		調 査 期 日		
～7/19		オ ン ラ イ ン 回 答 期 限		
7/22～7/26		オンライン回答世帯及び郵送提出世帯の特定及び『調査世帯一覧』への反映	オンライン回答世帯及び郵送提出世帯の特定及び調査員への伝達	
7/25～8/1		調査票の回収		
～8/1		調 査 票 の 提 出 期 限		
8/2～8/6		- 聞き取り調査 『督促状』(調査票の提出のお願い)等の配布		
8/7～8/9		- 回収した調査票、『調査世帯一覧』等の検査 - 回収した調査票、『調査世帯一覧』等の市区町への提出	調査員からの調査書類受領	
7月中旬～8月中旬			- 調査票等の審査 - 調査書類審査会開催	調査書類審査会出席
8月中旬		調査員報告会出席	調査員報告会開催	調査員報告会出席
8月下旬			- 調査書類の都道府県への提出 - 事後報告会出席(統計局開催)	- 調査書類の統計局への提出 - 事後報告会出席(統計局開催)

平成32年国勢調査第1次試験調査 主要日程

同時配布方式

時期	世帯	調査員	市区町	都府県
5/16～5/17			事務打合せ会出席(統計局開催)	事務打合せ会開催(統計局開催)
6月中旬		調査員事務打合せ会出席	調査員事務打合せ会開催	調査員事務打合せ会出席
6/25～6/29		- 受持ち調査区の確認 『調査区要図』及び『調査世帯一覧』の作成 『調査についてのお知らせ』の配布(任意)		
6/30～7/4	オンライン回答開始	「インターネット回答の利用案内」(『インターネット回答利用ガイド』等を含む)の配布 - 調査票の配布 『調査世帯一覧』の作成		
7/10～7/12	調査票の提出開始	『回答促進リーフレット』の配布	(民間)による第1次試験調査に係る支援 『郵送提出用封筒』のQRコード読み取り、仕分け、梱包、市区町への発送(～8月上旬)	
7/13	調 査 期 日			
～7/19	オ ン ラ イ ン 回 答 期 限			
7/22～7/26		オンライン回答世帯及び郵送提出世帯の特定及び『調査世帯一覧』への反映	オンライン回答世帯及び郵送提出世帯の特定及び調査員への伝達	
7/25～8/1		調査票の回収		
～8/1	調 査 票 の 提 出 期 限			
8/2～8/6		- 聞き取り調査 『督促状』(調査票の提出のお願い)等の配布		
8/7～8/9		- 回収した調査票、『調査世帯一覧』等の検査 - 回収した調査票、『調査世帯一覧』等の市区町への提出	調査員からの調査書類受領	
7月中旬～8月中旬			- 調査票等の審査 - 調査書類審査会開催	調査書類審査会出席
8月中旬		調査員報告会出席	調査員報告会開催	調査員報告会出席
8月下旬			- 調査書類の都道府県への提出 - 事後報告会出席(統計局開催)	- 調査書類の統計局への提出 - 事後報告会出席(統計局開催)

平成32年国勢調査第1次試験調査 調査票甲

秘 一般統計調査 平成32年国勢調査 調査票甲 第1次試験調査

記入は黒の鉛筆で

政府統計

この調査は、統計法に基づき政府が実施する統計調査です。
秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。

平成29年7月13日 総務省統計局

〇記入欄が〇の場合は、当てはまる〇を●のようにぬりつけてください。
〇数字を記入する場合は、わくの中に右つめを書いてください。

たて線(本) すきまをあける とじる

数字の記入例 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

はねない 上につきぬける 線をつける

世帯について
(調査票が2枚以上にわたる場合は1枚目のみに記入してください)

1 世帯員の数 総数 男 女
・ふだん住んでいる人
全員の人数を書いて
ください

2 住居の種類
持ち家 都道府県・市区町村等の
賃貸住宅 都道府県・市区町村等の
賃貸住宅 民営の
賃貸住宅 給与住宅
(社宅・公務員住宅など) 住宅に
間借り 会社等の
社宅・寮 宿舎 其他

3 住宅の床面積の合計(延べ面積)
・居住室のほか 玄関・台所・トイレ・浴室・
廊下・押し入れなどの床面積も含めます
・営業用の部分及び他の世帯の使用部分は
除いてください

世帯員全員について(世帯員ごとに記入してください)

4 氏名及び男女の別
・ふだん住んでいる人ををれなく
書いてください

5 世帯主との続柄
・世帯主の配偶者(妻又は夫)の祖
父母・兄弟姉妹はそれぞれ祖父
母・兄弟姉妹を含めます
・孫の配偶者は孫に 兄弟姉妹の配
偶者は兄弟姉妹を含めます

6 出生の年月
・該当する元号又は西暦に記入した
うえで年及び月を書いてください
・年を西暦で記入する場合は西暦年
の4桁を書いてください

7 配偶者の有無
・産出の有無に関係なく記入してください

8 国籍
・国籍を記入し 外国の場合は国名も書いてください

**9 現在の場所に
住んでいる期間**
・生まれてから引き続き現在の場所
に住んでいる場合は 出生時から
のみに記入してください

**10 5年前(平成24年7月13日)
にはどこに住んでいましたか**
・平成24年7月13日より後に生まれ
た人については 出生後にふだん住
んでいた場所を記入してください
・5年前に 同じ市内の他の区・
市町村に記入してください
・他の区・市町村の場合は
都道府県・市区町村名も
書いてください
(東京都都部と政令指定
都市の場合は区名まで)

調査員記入欄

住宅の建て方 一戸建 長屋建 (3戸以上入居型) 共同住宅 其他 建物全体の階数 この世帯の住宅がある階

電話番号 (わからないことがあった場合 問合せに利用いたします)

世帯の種類 一般世帯 (一人世帯 合計世帯 学校・寮・寄宿舍の学生・生徒 病院・療養所の入居者 老人ホーム等の社会施設の入居者 其他)

市区町村コード 調査区番号 世帯番号 この世帯の調査票の枚数 校のうちの枚目

1 第1面

世帯使用欄

世帯使用欄

調査票の記入のしかたを参照して 黒い太わくの中に記入してください

ウラ側も記入してください

この調査票は機械にかけますので汚さないでください

1 教育 ・現在 学校に在学しているかどうかについて記入したうえで 矢印に従って記入してください ・在学中の人はその学校について 卒業の人は最終卒業学校(中途退学した人はその前の卒業学校)について記入してください ・専修学校・各種学校に在学中又は卒業の人は「調査票の記入のしかた」の8ページを参照して記入してください	1 在学中 ☐ 小学・中学 ☐ 高校・旧中 ☐ 短大・高専 ☐ 大学・大学院 ☐ 幼稚園 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 認定こども園 ☐ 乳児・その他 ☐	2 在学中 ☐ 小学・中学 ☐ 高校・旧中 ☐ 短大・高専 ☐ 大学・大学院 ☐ 幼稚園 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 認定こども園 ☐ 乳児・その他 ☐	3 在学中 ☐ 小学・中学 ☐ 高校・旧中 ☐ 短大・高専 ☐ 大学・大学院 ☐ 幼稚園 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 認定こども園 ☐ 乳児・その他 ☐	4 在学中 ☐ 小学・中学 ☐ 高校・旧中 ☐ 短大・高専 ☐ 大学・大学院 ☐ 幼稚園 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 認定こども園 ☐ 乳児・その他 ☐
12 7月6日から12日までの1週間に仕事をしましたか ・仕事とは 収入を伴う仕事をいいます(自家営業(農業や店の仕事など)の手伝いや内職・パートタイム・アルバイトも含めます) ・通学には 予備校・専門学校などに通っている場合も含めます ・幼稚園又は保育園などに通っている場合は その他に記入してください	主に仕事 家事などのほか仕事 ☐ 13欄へ 通学のかたわら仕事 ☐ 13欄へ 少しも仕事をしなかった人 ☐ 13欄へ 休んでい ☐ 13欄へ た ☐ 13欄へ 仕事 ☐ 13欄へ して ☐ 13欄へ 家 ☐ 13欄へ 事 ☐ 13欄へ 通 ☐ 13欄へ 学 ☐ 13欄へ その他 ☐ 13欄へ (幼児や高齢者など)	主に仕事 家事などのほか仕事 ☐ 13欄へ 通学のかたわら仕事 ☐ 13欄へ 少しも仕事をしなかった人 ☐ 13欄へ 休んでい ☐ 13欄へ た ☐ 13欄へ 仕事 ☐ 13欄へ して ☐ 13欄へ 家 ☐ 13欄へ 事 ☐ 13欄へ 通 ☐ 13欄へ 学 ☐ 13欄へ その他 ☐ 13欄へ (幼児や高齢者など)	主に仕事 家事などのほか仕事 ☐ 13欄へ 通学のかたわら仕事 ☐ 13欄へ 少しも仕事をしなかった人 ☐ 13欄へ 休んでい ☐ 13欄へ た ☐ 13欄へ 仕事 ☐ 13欄へ して ☐ 13欄へ 家 ☐ 13欄へ 事 ☐ 13欄へ 通 ☐ 13欄へ 学 ☐ 13欄へ その他 ☐ 13欄へ (幼児や高齢者など)	主に仕事 家事などのほか仕事 ☐ 13欄へ 通学のかたわら仕事 ☐ 13欄へ 少しも仕事をしなかった人 ☐ 13欄へ 休んでい ☐ 13欄へ た ☐ 13欄へ 仕事 ☐ 13欄へ して ☐ 13欄へ 家 ☐ 13欄へ 事 ☐ 13欄へ 通 ☐ 13欄へ 学 ☐ 13欄へ その他 ☐ 13欄へ (幼児や高齢者など)
就業者・通学者について (12欄で仕事を休んでいたに記入した人は13～17欄にその休んでいた仕事について記入してください)				
13 従業地又は通学地 ・仕事も通学もしている人は 仕事をしている場所について記入してください ・同じ市内の他の区に通勤・通学している場合は 他(区)市町村に記入してください ・他(区)市町村の場合は 都道府県・市区町村名も書いてください (東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)	自宅(をきむ) ☐ 15欄へ 同じ区・市町村 ☐ 14欄へ 他(区)市町村 ☐ 15欄へ (市町村を記入)	自宅(をきむ) ☐ 15欄へ 同じ区・市町村 ☐ 14欄へ 他(区)市町村 ☐ 15欄へ (市町村を記入)	自宅(をきむ) ☐ 15欄へ 同じ区・市町村 ☐ 14欄へ 他(区)市町村 ☐ 15欄へ (市町村を記入)	自宅(をきむ) ☐ 15欄へ 同じ区・市町村 ☐ 14欄へ 他(区)市町村 ☐ 15欄へ (市町村を記入)
14 従業地又は通学地までの利用交通手段 ・二つ以上の交通手段を利用している場合は(徒歩を除く)は 該当するものすべてに記入してください ・徒歩のみで通勤・通学している場合は 徒歩のみに記入してください	徒歩のみ ☐ 15欄へ 鉄道 ☐ 15欄へ 電車 ☐ 15欄へ バス ☐ 15欄へ 自転車 ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ 自家用車 ☐ 15欄へ バイク ☐ 15欄へ タクシー ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ	徒歩のみ ☐ 15欄へ 鉄道 ☐ 15欄へ 電車 ☐ 15欄へ バス ☐ 15欄へ 自転車 ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ 自家用車 ☐ 15欄へ バイク ☐ 15欄へ タクシー ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ	徒歩のみ ☐ 15欄へ 鉄道 ☐ 15欄へ 電車 ☐ 15欄へ バス ☐ 15欄へ 自転車 ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ 自家用車 ☐ 15欄へ バイク ☐ 15欄へ タクシー ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ	徒歩のみ ☐ 15欄へ 鉄道 ☐ 15欄へ 電車 ☐ 15欄へ バス ☐ 15欄へ 自転車 ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ 自家用車 ☐ 15欄へ バイク ☐ 15欄へ タクシー ☐ 15欄へ その他 ☐ 15欄へ
就業者について (12欄で通学に記入した人は15～17欄には記入の必要はありません)				
15 勤め先・自営か別の ・労働者派遣事業所の派遣社員とは 労働者派遣法に基づいて派遣されている人をいいます ・パート・アルバイト・その他には 契約社員 嘱託なども含めます ・自営業主とは 個人で事業を営んでいる人(開業などを含む)や自営業の人をいいます	雇われている人 ☐ 16欄へ 会社 ☐ 16欄へ 正社員 ☐ 16欄へ 労働者派遣事業所の派遣社員 ☐ 16欄へ パート・アルバイト ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ 自営業主 ☐ 16欄へ 家族 ☐ 16欄へ 家庭内の員 ☐ 16欄へ 仕事 ☐ 16欄へ 内職 ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ	雇われている人 ☐ 16欄へ 会社 ☐ 16欄へ 正社員 ☐ 16欄へ 労働者派遣事業所の派遣社員 ☐ 16欄へ パート・アルバイト ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ 自営業主 ☐ 16欄へ 家族 ☐ 16欄へ 家庭内の員 ☐ 16欄へ 仕事 ☐ 16欄へ 内職 ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ	雇われている人 ☐ 16欄へ 会社 ☐ 16欄へ 正社員 ☐ 16欄へ 労働者派遣事業所の派遣社員 ☐ 16欄へ パート・アルバイト ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ 自営業主 ☐ 16欄へ 家族 ☐ 16欄へ 家庭内の員 ☐ 16欄へ 仕事 ☐ 16欄へ 内職 ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ	雇われている人 ☐ 16欄へ 会社 ☐ 16欄へ 正社員 ☐ 16欄へ 労働者派遣事業所の派遣社員 ☐ 16欄へ パート・アルバイト ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ 自営業主 ☐ 16欄へ 家族 ☐ 16欄へ 家庭内の員 ☐ 16欄へ 仕事 ☐ 16欄へ 内職 ☐ 16欄へ その他 ☐ 16欄へ
16 勤め先・業主などの名称及び事業の内容 ・仕事をしている事業所(本社・支店・事業所・工場・商店などの名称)を書いてください (官公庁は課名まで) ・その事業所で主に営まれている事業の内容をくわしく書いてください ・労働者派遣事業所の派遣社員は 派遣先(実際に仕事をしている事業所)について書いてください	勤め先・業主などの名称 ☐ 16欄へ 事業の内容 ☐ 16欄へ	勤め先・業主などの名称 ☐ 16欄へ 事業の内容 ☐ 16欄へ	勤め先・業主などの名称 ☐ 16欄へ 事業の内容 ☐ 16欄へ	勤め先・業主などの名称 ☐ 16欄へ 事業の内容 ☐ 16欄へ
17 本人の仕事の内容 ・本人が実際にしている主な仕事の内容をくわしく書いてください	本人の仕事の内容 ☐ 17欄へ	本人の仕事の内容 ☐ 17欄へ	本人の仕事の内容 ☐ 17欄へ	本人の仕事の内容 ☐ 17欄へ

平成 32 年国勢調査第 1 次試験調査 調査票乙

秘 一般統計調査

記入は黒の鉛筆で

平成 32 年国勢調査
第 1 次試験調査

調査票乙

この調査は、統計法に基づき政府が実施する統計調査です。
秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。

平成 29 年 7 月 13 日 総務省統計局

世帯について
(調査票が 2 枚以上にわたる場合は 1 枚目のみに記入してください)

1 世帯員の数 総数 男 女
 ・ふだん住んでいる人
 全員の人数を書いて
 ください

2 住居の種類
 持ち家 都道府県・市区町村等の
 所有住宅 都道府県・市区町村等の
 賃貸住宅 民営の
 賃貸住宅 給与住宅
 (社宅・公務員住宅など) 住宅に
 間借り 会社等の
 社宅・寮 宿舎 其他

○ 記入欄が ○ の場合は、当てはまる ○ を ● のようにぬりつぶしてください。
 ○ 数字を記入する場合は、わくの中に右づめで書いてください。

数字の記入例

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

はねない 上にうきぬける 角をつける

世帯員全員について (世帯員ごとに記入してください)

3 氏名及び男女の別
 ・ふだん住んでいる人をれなく
 書いてください

4 世帯主との続柄
 ・世帯主の配偶者(妻又は夫)の祖
 父母・兄弟姉妹はそれぞれ祖父
 母・兄弟姉妹に含めます
 ・孫の配偶者は孫に 兄弟姉妹の配
 偶者は兄弟姉妹に含めます

5 出生の年月
 ・該当する元号又は西暦に記入した
 うえで 年及び月を書いてください
 ・年を西暦で記入する場合は西暦年
 の 4 桁を書いてください

6 配偶者の有無
 ・産出の有無に無関係なく記入してください

7 国籍
 ・国籍を記入し 外国の場合は 国名も書いてください

**8 現在の場所に
 住んでいる期間**
 ・生まれてから引き続き現在の場所
 に住んでいる場合は 出生時から
 のみに記入してください

**9 5 年前(平成 24 年 7 月 13 日)
 にはどこに住んでいましたか**
 ・平成 24 年 7 月 13 日より後に生まれ
 た人については 出生後にふだん住
 んでいた場所を記入してください
 ・5 年前に 同じ市内の他の区・
 市町村に記入してください
 ・他の区・市町村の場合は
 都道府県・市区町村名も
 書いてください
 (東京都都部と政令指定
 都市の場合は区名まで)

調査員記入欄

住宅の建て方 一戸建 長屋建 (3 戸以上入居) 共同住宅 其他

建物全体の階数 この世帯の住宅がある階

電話番号 (わからないことがあった場合 問合せに利用いたします)

世帯の種類 一般世帯 (一人世帯 会社等の
 社員寮の入居者を含む) 学校の寮・
 寄宿舎の学生・生徒 病院・療養所
 の入居者 老人ホーム等
 の社会施設
 の入居者 其他

市区町村コード 調査区番号 世帯番号 この世帯の調査票
 枚のうちの 枚目

調査使用機 行

「調査票の記入のしかたを参照して 黒い太わくの中に記入してください」

「ウラ側も記入してください」

この調査票は機械にかけますので汚さないでください

Ⅱ 調査票の集計結果

第 1 調査票の回収状況

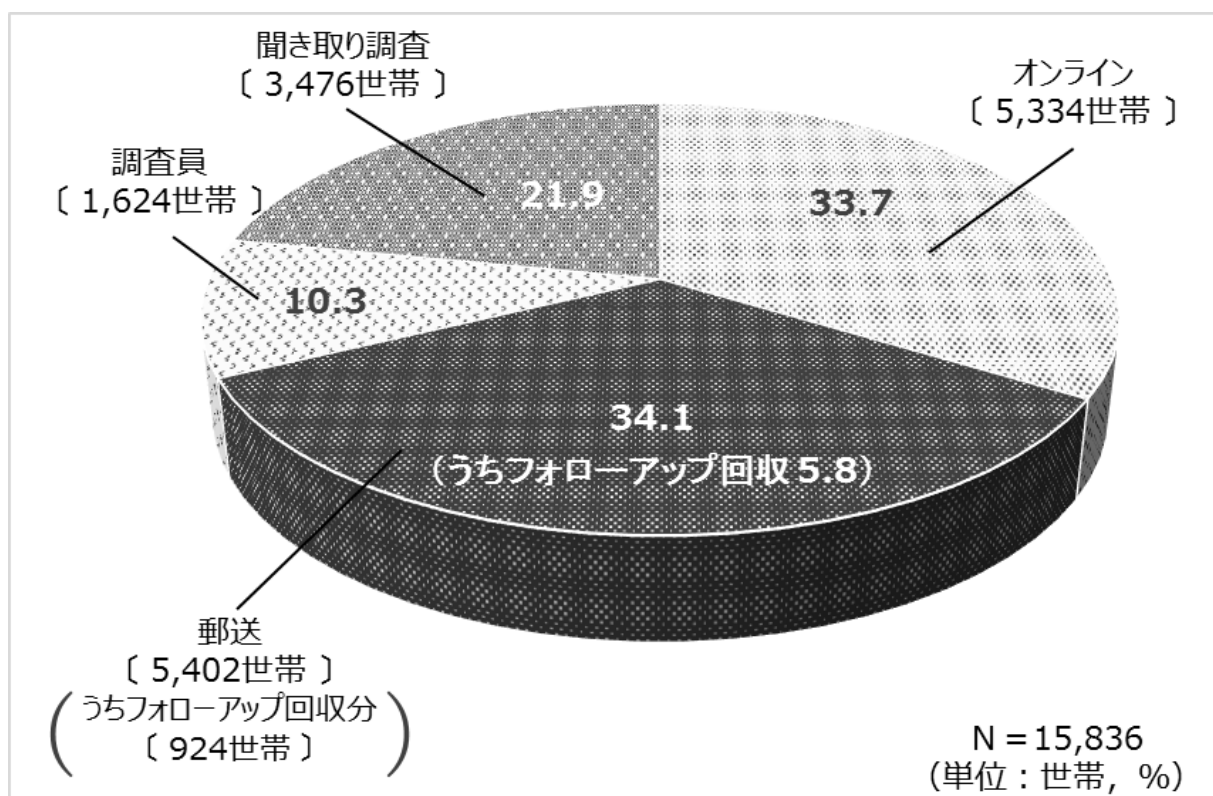
1 全体の回収状況

調査対象世帯は、15,836世帯となっており、これを回収方法別にみると、オンライン回収は5,334世帯（調査対象世帯に占める割合33.7%）、当初回収分とフォローアップ回収分を合わせた郵送回収は5,402世帯（同34.1%）、調査員回収は1,624世帯（同10.3%）、聞き取り世帯は3,476世帯（同21.9%）となっている。

フォローアップ回収についてみると、調査対象世帯に占める割合は5.8%となっており、一定の督促効果が得られている。 《図Ⅱ－1》

市区町別の回収状況をみると、京都府精華町では、オンライン回収が349世帯（町内の調査対象世帯に占める割合59.3%）であり、調査を実施した16市区町で、オンライン回収の割合が最も高かった。 《表Ⅱ－1》

図Ⅱ－1 回収方法別世帯数及び割合



表Ⅱ－１ 市区町、回収方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

回収方法		総数	回答世帯					聞き取り 調査 2)
			計	ワライン	郵送	フ和-アツフ	調査員	
						1)		
市区町								
(実数)	総数	15,836	12,360	5,334	5,402	924	1,624	3,476
	宮城県 仙台市泉区	1,440	1,035	474	454	87	107	405
	利府町	655	582	276	219	18	87	73
	東京都 港区	1,410	582	281	290	107	11	828
	北区	1,006	656	284	344	103	28	350
	富山県 富山市	1,193	941	393	449	48	99	252
	入善町	536	528	227	226	17	75	8
	静岡県 浜松市東区	1,317	1,098	496	492	77	110	219
	小山町	517	493	229	212	15	52	24
	滋賀県 東近江市	1,100	866	454	278	56	134	234
	日野町	588	534	199	278	46	57	54
	京都府 京都市東山区	953	678	260	350	79	68	275
	精華町	589	589	349	214	61	26	-
	岡山県 岡山市南区	1,471	1,112	523	478	95	111	359
	矢掛町	507	495	177	230	11	88	12
	宮崎県 宮崎市	1,327	1,061	370	469	68	222	266
	日向市	1,227	1,110	342	419	36	349	117
(構成比)	総数	100.0	78.1	33.7	34.1	5.8	10.3	21.9
	宮城県 仙台市泉区	100.0	71.9	32.9	31.5	6.0	7.4	28.1
	利府町	100.0	88.9	42.1	33.4	2.7	13.3	11.1
	東京都 港区	100.0	41.3	19.9	20.6	7.6	0.8	58.7
	北区	100.0	65.2	28.2	34.2	10.2	2.8	34.8
	富山県 富山市	100.0	78.9	32.9	37.6	4.0	8.3	21.1
	入善町	100.0	98.5	42.4	42.2	3.2	14.0	1.5
	静岡県 浜松市東区	100.0	83.4	37.7	37.4	5.8	8.4	16.6
	小山町	100.0	95.4	44.3	41.0	2.9	10.1	4.6
	滋賀県 東近江市	100.0	78.7	41.3	25.3	5.1	12.2	21.3
	日野町	100.0	90.8	33.8	47.3	7.8	9.7	9.2
	京都府 京都市東山区	100.0	71.1	27.3	36.7	8.3	7.1	28.9
	精華町	100.0	100.0	59.3	36.3	10.4	4.4	-
	岡山県 岡山市南区	100.0	75.6	35.6	32.5	6.5	7.5	24.4
	矢掛町	100.0	97.6	34.9	45.4	2.2	17.4	2.4
	宮崎県 宮崎市	100.0	80.0	27.9	35.3	5.1	16.7	20.0
	日向市	100.0	90.5	27.9	34.1	2.9	28.4	9.5

1) 督促事務開始日（８月２日）以降に、調査票の提出があった世帯を指す。

2) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

2 調査方法別の回収状況

調査方法別に調査票の回収状況をみると、二段階配布方式においては、オンライン回収が2,956世帯（調査対象世帯に占める割合37.4%）で、最も高くなっている一方、同時配布方式においては、郵送回収が2,985世帯（同37.7%）で、最も高くなっている。

二段階配布方式と同時配布方式を比較すると、オンライン回収の割合は、二段階配布方式の方が7.4ポイント高くなっている。 《表Ⅱ－2》

また、調査方法別の重複回答数をみると、二段階配布方式においては、75世帯（同0.9%）で、同時配布方式においては、21世帯（同0.3%）となっている。 《表Ⅱ－3》

表Ⅱ－2 調査方法、回収方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

回収方法		総数	回答世帯				聞き取り 調査 1)
調査方法			合計	オンライン	郵送	調査員	
(実数)	総数	15,836	12,360	5,334	5,402	1,624	3,476
	二段階配布方式	7,910	6,183	2,956	2,417	810	1,727
	同時配布方式	7,926	6,177	2,378	2,985	814	1,749
(構成比)	総数	100.0	78.1	33.7	34.1	10.3	21.9
	二段階配布方式	100.0	78.2	37.4	30.6	10.2	21.8
	同時配布方式	100.0	77.9	30.0	37.7	10.3	22.1

1) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

表Ⅱ－3 調査方法、重複回答の有無、回収方法別重複回答世帯数及び割合

(世帯, %)

調査方法		重複回答の有無 回収方法	総数	重複回答 なし	重複回答 あり 1)	重複回答の回収方法		
						郵送	調査員	以外 (オンライン)
(実数)	総数		15,836	15,740	96	73	22	1
	二段階配布方式		7,910	7,835	75	60	14	1
	同時配布方式		7,926	7,905	21	13	8	-
(構成比)	総数		100.0	99.4	0.6	0.5	0.1	0.0
	二段階配布方式		100.0	99.1	0.9	0.8	0.2	0.0
	同時配布方式		100.0	99.7	0.3	0.2	0.1	-

1) オンライン回収と郵送回収などの、複数の回答が得られた世帯。なお、聞き取り調査を行った後に郵送回収等によって調査票が得られた世帯は含まない。

3 調査区の地域特性別の回収状況

調査区の地域特性別に調査票の回収状況をみると、「オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域」、「一戸建の多い地域」及び「その他の地域」においては、ともに郵送提出割合が最も高くなっている。

「ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域」では、オンライン回収、郵送回収及び調査員回収のうち、オンライン回答率が最も高くなっている一方で、調査員回収率は全地域特性の中で、最も低くなっている。

世帯から直接回答が得られた割合をみると、オートロックマンションについては、調査対象世帯に占める割合72.8% (3,034世帯)、ワンルームマンションについては、同割合61.3% (2,553世帯) となっている。

《表Ⅱ－4》

表Ⅱ－4 調査地域の特性、回答方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

地域特性		回収方法					聞き取り調査 1)
		総数	回答世帯 合計	オンライン	郵送	調査員	
(実数)	総数	15,836	12,360	5,334	5,402	1,624	3,476
	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域	4,166	3,034	1,239	1,367	428	1,132
	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	4,163	2,553	1,193	1,055	305	1,610
	一戸建の多い地域	3,656	3,387	1,457	1,503	427	269
	その他の地域	3,851	3,386	1,445	1,477	464	465
(構成比)	総数	100.0	78.1	33.7	34.1	10.3	21.9
	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域	100.0	72.8	29.7	32.8	10.3	27.2
	ワンルームマンションなど単身者が居住する住宅の多い地域	100.0	61.3	28.7	25.3	7.3	38.7
	一戸建の多い地域	100.0	92.6	39.9	41.1	11.7	7.4
	その他の地域	100.0	87.9	37.5	38.4	12.0	12.1

1) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

4 世帯人員別の回収状況

世帯人員別の回収率をみると、世帯から直接回答が得られた割合は、世帯人員が2人以上の世帯で9割以上となっている。一方、単身世帯では、54.0%となっている。

《表Ⅱ－5》

表Ⅱ－5 世帯人員、回収方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

回収方法		総数	回答世帯				聞き取り 調査 1)
			合計	オンライン	郵送	調査員	
世帯人員規模							
(実数)	総数	15,836	12,360	5,334	5,402	1,624	3,476
	単身世帯	6,109	3,301	1,224	1,609	468	2,808
	世帯人員 2 人	4,181	3,893	1,500	1,899	494	288
	世帯人員 3 人	2,573	2,386	1,126	975	285	187
	世帯人員 4 人	1,950	1,820	968	617	235	130
	世帯人員 5 人以上	1,023	960	516	302	142	63
(構成比)	総数	100.0	78.1	33.7	34.1	10.3	21.9
	単身世帯	100.0	54.0	20.0	26.3	7.7	46.0
	世帯人員 2 人	100.0	93.1	35.9	45.4	11.8	6.9
	世帯人員 3 人	100.0	92.7	43.8	37.9	11.1	7.3
	世帯人員 4 人	100.0	93.3	49.6	31.6	12.1	6.7
	世帯人員 5 人以上	100.0	93.8	50.4	29.5	13.9	6.2

1) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

5 世帯主の年齢階級別の回収状況

世帯主の年齢階級別に調査票の回収状況をみると、60歳未満ではオンライン回答した世帯の割合が4割以上を占めている。一方で、60歳以上では、郵送提出している世帯の割合が他の年齢層に比べ高くなっている。

また、20歳代までの聞き取り調査の割合が高く、30歳代以上は、年齢層が上がるにつれて、聞き取り調査の割合が逡減している。 《表Ⅱ－6》

表Ⅱ－6 世帯主の年齢階級、回収方法別世帯数及び割合

(世帯, %)

回収方法 世帯主の年齢階級	(実数)						(構成比)					
	総数	回答世帯 合計	オンライン	郵送	調査員	聞き取り 調査 1)	総数	回答世帯 合計	オンライン	郵送	調査員	聞き取り 調査 1)
総数	15,836	12,360	5,334	5,402	1,624	3,476	100.0	78.1	33.7	34.1	10.3	21.9
20歳未満	96	78	41	27	10	18	100.0	81.3	42.7	28.1	10.4	18.8
20歳代	982	714	415	220	79	268	100.0	72.7	42.3	22.4	8.0	27.3
30歳代	1,688	1,468	776	483	209	220	100.0	87.0	46.0	28.6	12.4	13.0
40歳代	2,227	1,996	1,156	631	209	231	100.0	89.6	51.9	28.3	9.4	10.4
50歳代	2,212	2,070	1,130	724	216	142	100.0	93.6	51.1	32.7	9.8	6.4
60歳代	2,680	2,580	1,027	1,257	296	100	100.0	96.3	38.3	46.9	11.0	3.7
70歳代	1,997	1,926	498	1,139	289	71	100.0	96.4	24.9	57.0	14.5	3.6
80歳以上	1,338	1,281	291	728	262	57	100.0	95.7	21.7	54.4	19.6	4.3
年齢「不詳」	2,616	247	-	193	54	2,369	100.0	9.4	-	7.4	2.1	90.6

1) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

第2 オンライン調査による回答状況

1 アクセス状況、電子調査票の種類別回答数

- オンライン調査システムへログイン（アクセス）した世帯は、5,520世帯（総世帯数に占める割合34.9%）となっている。また、実際にオンライン回答をした世帯は5,334世帯（同33.7%）、ログインをしたが回答まで至らなかった世帯は186世帯（同1.2%）となっている。

なお、ログイン数（同一調査対象世帯からの複数ログインを含む）に占める回答者の割合は96.6%となっており、ログインした世帯のほとんどから回答を得ている。

《表Ⅱ－8》

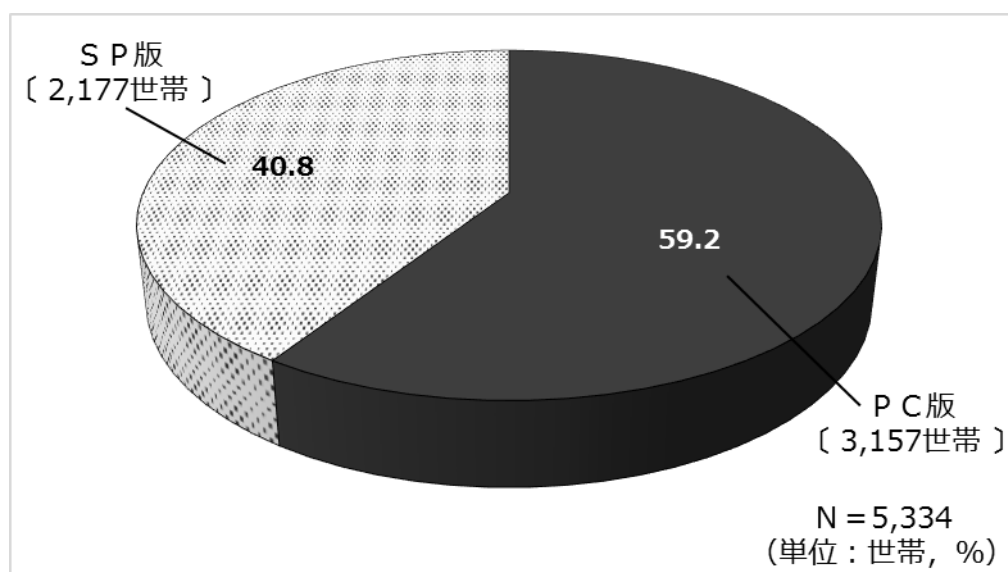
表Ⅱ－8 オンライン調査システムへのログイン・回答数及び割合

	(実数)	(構成比1)	(構成比2)
総世帯数	15,836	100.0	
ログインした世帯	5,520	34.9	100.0
回答した世帯	5,334	33.7	96.6
回答しなかった世帯	186	1.2	3.4

- 電子調査票の種類別の回答状況を見ると、P C版が3,157件（オンライン回答世帯に占める割合59.2%）、スマートフォン版（以下「S P版」という。）が2,177件（同40.8%）となっている。

《図Ⅱ－2》

図Ⅱ－2 電子調査票の種類別回答数及び割合



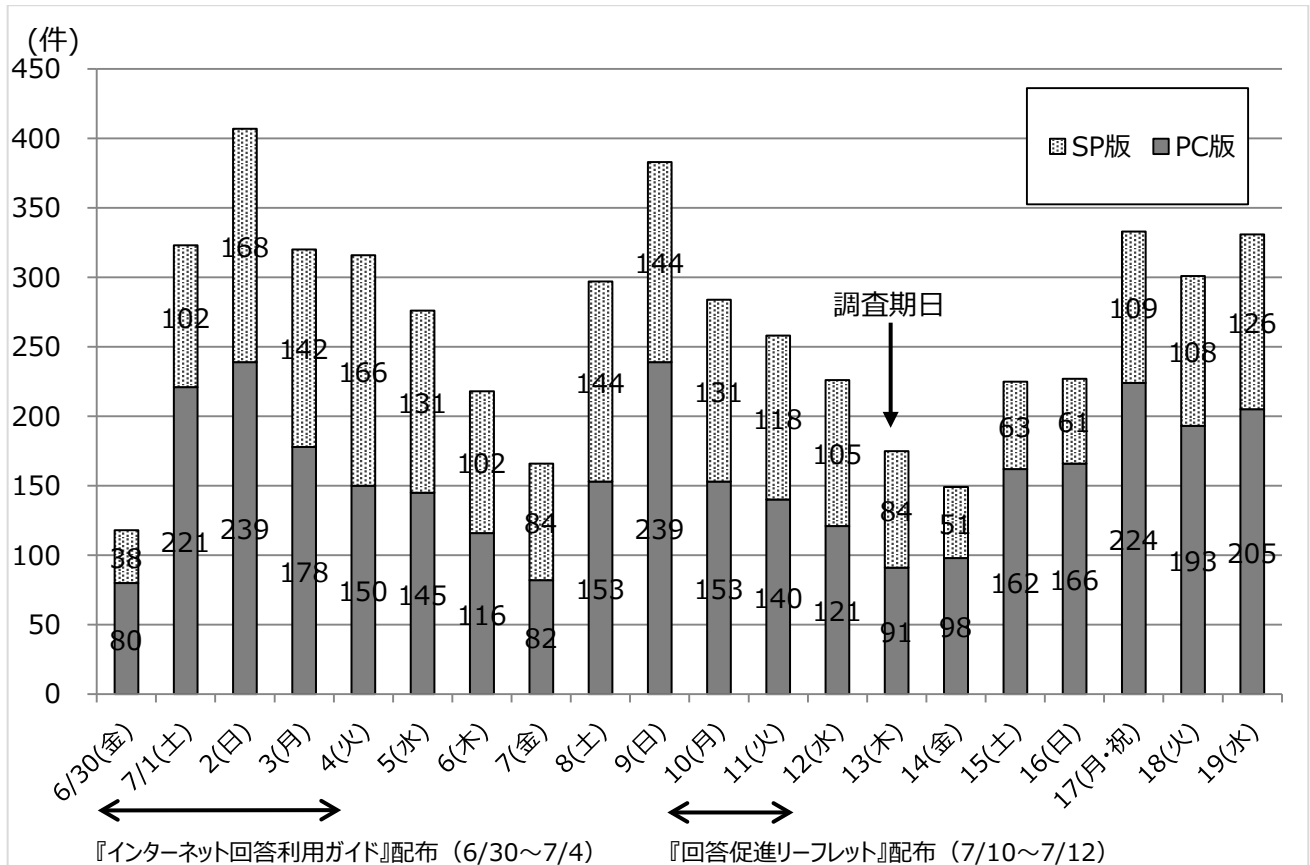
2 日別の回答状況

- オンライン回答のあった世帯を日別にみると、回答期間中の初めての日曜日（7月2日）がピークとなっており、それ以降減少傾向にあったが、土日（7月8日～7月9日）に入ると再度回答数が増加している。

また、回答期間終了間際の3連休（7月15日～7月17日）においても、回答数が増加している。

《図Ⅱ－3》

図Ⅱ－3 回答日、電子調査票の種類別回答数



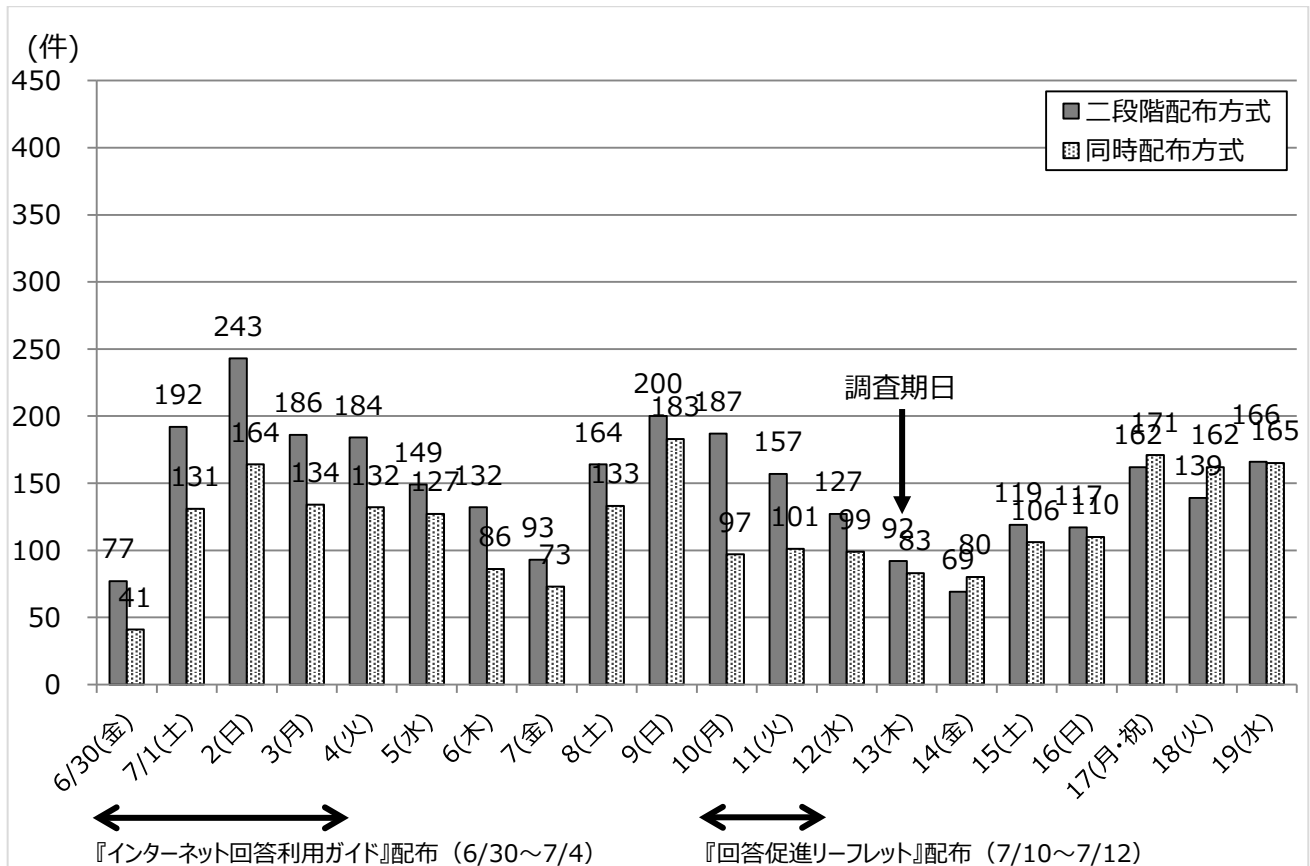
3 調査方法別の回答状況

- オンライン回答のあった世帯を調査方法別にみると、二段階配布方式は回答期間開始直後の日曜日（7月2日）がピークとなっており、同時配布方式は回答期間中の2回目の日曜日（7月9日）がピークとなっている。

また、7月10日（月）～7月14日（金）の期間、二段階配布方式の日別の回答世帯数が緩やかに減少しているのに比べ、同時配布方式では7月10日（月）に大幅に減少したのち、低調に推移している。

《図Ⅱ－4》

図Ⅱ－4 回答日、電子調査票の種類別回答数



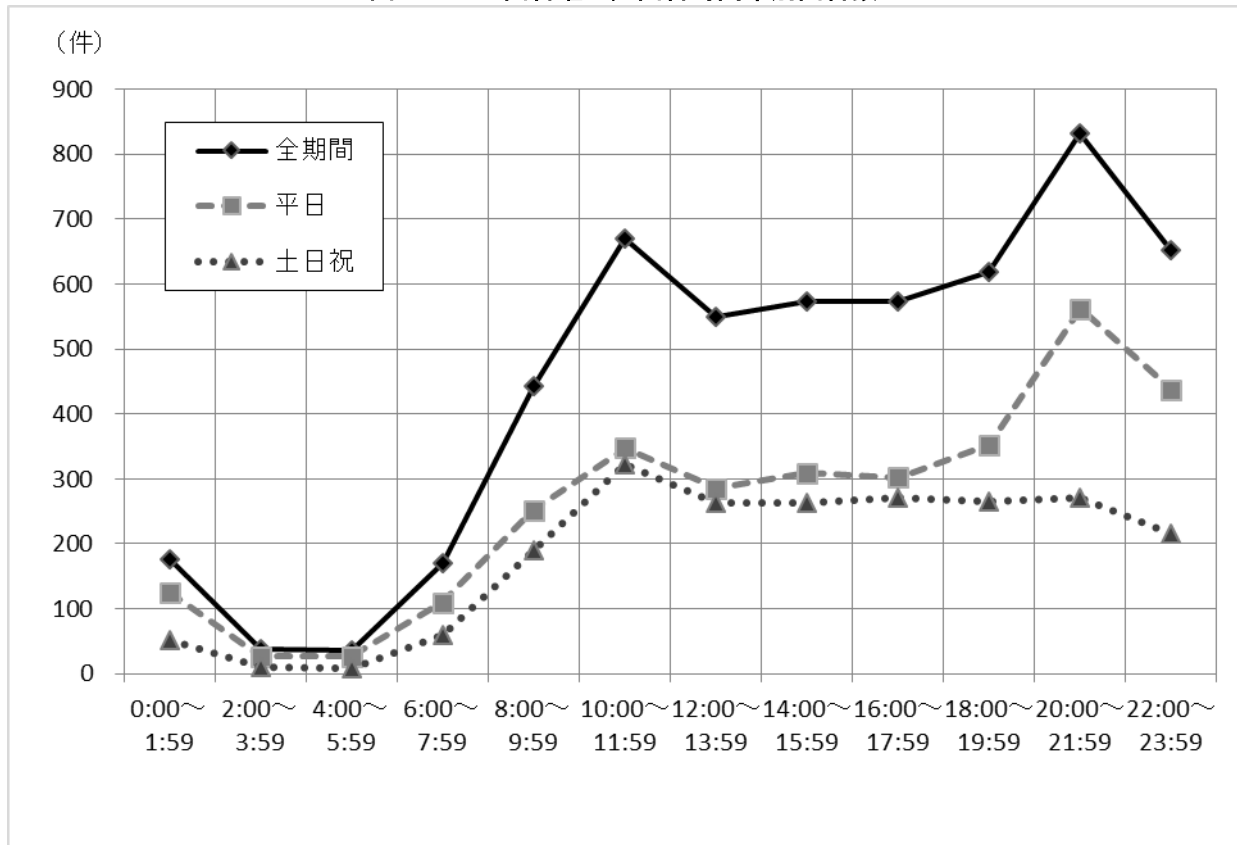
4 時間帯別の回答状況

オンライン回答のあった世帯を回答時間帯別にみると、早朝（6：00～7：59）から増加していた回答件数は、昼前（10：00～11：59）を境に一旦減少している。午後になると、16：00過ぎから徐々に増加し、夜間（20：00～21：59）の時間帯でピークに達している。

また、平日及び土日祝別にみると、平日では夜間（20：00～21：59）のピークが高くなっているが、土日祝では昼前（10：00～11：59）の時間帯でピークに達している。

《図Ⅱ－5》

図Ⅱ－5 回答曜日、回答時間帯別回答数



5 世帯主の年齢階級別の回答状況

オンライン回答のあった5,334世帯を世帯主の年齢階級別にみると、「40歳代」が1,156件（P C版634件，S P版522件）で最も多く、次いで「50歳代」（1,130件（P C版767件，S P版363件））、「60歳代」（1,027件（P C版697件，S P版330件））となっている。

また、これを電子調査票の種類別の割合でみると、S P版は「20歳代」で61.2%、「20歳未満」で61.0%、「30歳代」で55.9%など若年層での割合が高くなっている。

《表Ⅱ－9》

表Ⅱ－9 世帯主の年齢階級，電子調査票の種類別回答数及び割合

(件，%)

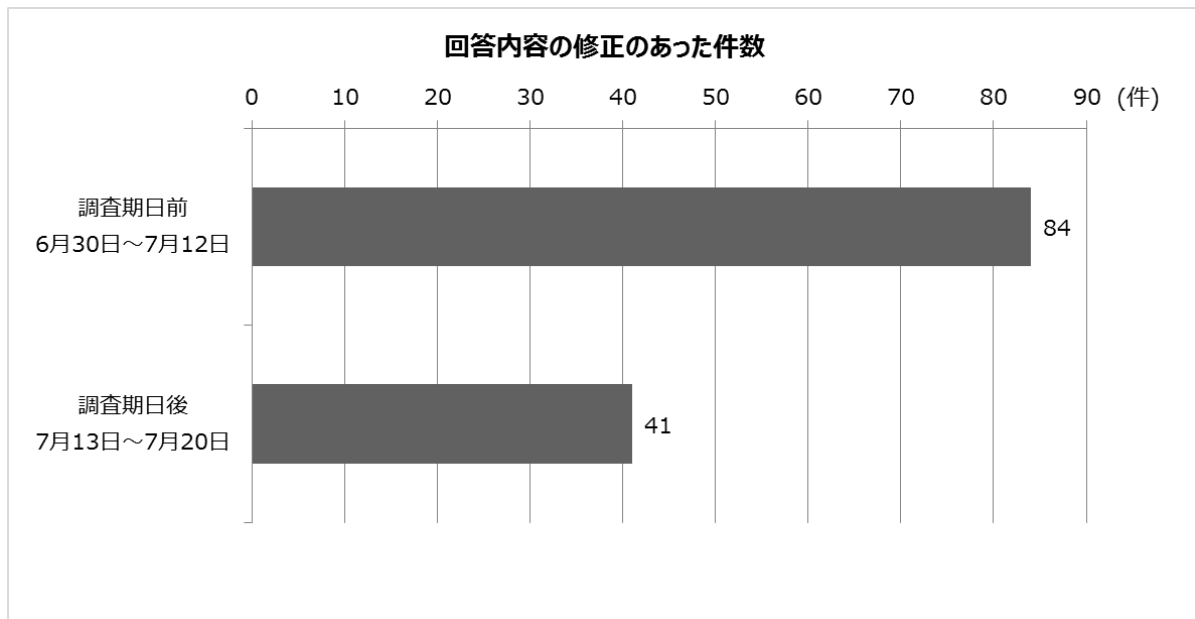
PC・SPの別 世帯主の年齢階級	(実数)			(構成比)		
	総数	P C版	S P版	総数	P C版	S P版
総数	5,334	3,157	2,177	100.0	59.2	40.8
20歳未満	41	16	25	100.0	39.0	61.0
20歳代	415	161	254	100.0	38.8	61.2
30歳代	776	342	434	100.0	44.1	55.9
40歳代	1,156	634	522	100.0	54.8	45.2
50歳代	1,130	767	363	100.0	67.9	32.1
60歳代	1,027	697	330	100.0	67.9	32.1
70歳代	498	332	166	100.0	66.7	33.3
80歳以上	291	208	83	100.0	71.5	28.5

6 その他

- 調査期日より前に回答を受け付けることが可能であり、回答内容に変更が生じた場合は、世帯が修正することとしている。第1次試験調査において、回答内容の修正があった件数は125件（うち、調査期日前が84件，調査期日後が41件）となっている。

《図Ⅱ－6》

図Ⅱ－6 世帯におけるオンライン回答内容の修正件数



第3 調査票の記入状況

1 調査事項別の記入状況

(1) 回収方法別の記入状況

調査事項別に記入状況をみると、「住宅の床面積」において記入不備のある割合が16.4%と最も高くなっており、以下「教育（最終学歴）」が同割合11.6%、「教育（就学の有無）」及び「本人の仕事の内容」がそれぞれ9.8%と続いている。

また、回収方法別の記入状況をみると、調査員回収と郵送回収で、記入不備のある割合に大きな差はみられない。

《表Ⅱ－10》

表Ⅱ－10 調査事項、回収方法別記入不備のある世帯及び世帯員の割合

(%)

調査事項		回収方法 記入不備の内容			合計			(調査員回収)			(郵送回収)		
					エラー あり	記入 漏れ	マルチ 記入	エラー あり	記入 漏れ	マルチ 記入	エラー あり	記入 漏れ	マルチ 記入
第1面	世帯人員				1.3	-	-	1.3	-	-	1.3	-	-
	住居の種類				1.3	1.2	0.1	1.7	1.7	0.0	1.1	1.0	0.1
	住宅の床面積	1)			16.4	14.7	1.7	18.4	17.4	1.0	15.7	13.8	1.9
	男女の別				0.6	0.6	0.0	0.8	0.8	0.1	0.5	0.5	0.0
	世帯主との続き柄				1.1	0.8	0.3	1.2	0.9	0.3	1.1	0.8	0.3
	出生の年月（元号・西暦・年月日が規定値か）				2.5	-	-	2.8	-	-	2.4	-	-
	配偶者の有無				3.9	3.8	0.1	4.9	4.7	0.1	3.6	3.6	0.0
	国籍				1.1	1.1	-	1.3	1.3	-	1.1	1.1	-
	外国の場合の国名	2)			1.9	1.9	-	-	-	-	2.6	2.6	-
	現在の住居における居住期間				1.6	1.2	0.4	2.1	1.5	0.6	1.5	1.2	0.3
第2面	5年前の住居の所在地				4.3	4.2	0.2	4.6	4.4	0.1	4.2	4.1	0.2
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)			0.5	0.5	-	0.6	0.6	-	0.5	0.5	-
	教育（就学の有無）				9.8	9.7	0.0	7.7	7.6	0.1	10.4	10.4	0.0
	教育（最終学歴）				11.6	11.3	0.3	10.0	9.5	0.5	12.2	12.0	0.2
	就業状態				4.6	4.1	0.5	4.6	4.1	0.5	4.7	4.1	0.5
	従業地又は通学地				5.3	5.1	0.2	4.9	4.6	0.2	5.5	5.3	0.2
	他の区・市町村の場合の区・市町村名	2)			2.4	2.4	-	3.2	3.2	-	2.2	2.2	-
	利用交通手段				4.0	1.3	2.6	4.7	1.1	3.6	3.7	1.4	2.3
	従業上の地位				5.7	5.0	0.6	6.2	5.6	0.7	5.5	4.9	0.6
	勤め先・業主などの名称	2)			7.2	7.2	-	8.0	8.0	-	6.9	6.9	-
調査員欄	事業の内容	2)			9.1	9.1	-	9.5	9.5	-	8.9	8.9	-
	本人の仕事の内容	2)			9.8	9.8	-	11.0	11.0	-	9.4	9.4	-
	世帯の種類				0.7	0.6	0.1	0.5	0.5	-	0.8	0.6	0.1
調査員欄	住宅の建て方				1.3	1.3	0.1	1.1	1.0	0.1	1.4	1.4	0.1
	共同住宅の場合の階数				0.6	0.6	-	0.5	0.5	-	0.6	0.6	-

1) 集計対象は調査票（甲）のみ

2) フリー記入欄における記入の有無

(2) 調査方法別の記入状況

調査方法別に各調査事項の記入状況をみると、記入不備のある割合が最も高い事項は、二段階配布方式及び同時配布方式ともに「住宅の床面積」となっており、「教育（最終学歴）」、「教育（就学の有無）」と続いている。

また、調査方法別の記入状況をみると、二段階配布方式と同時配布方式で、記入不備のある割合に大きな差はみられない。 《表Ⅱ－11》

表Ⅱ－11 調査方法別記入不備のある世帯及び世帯員の割合－郵送回収・調査員回収世帯

(%)

調査事項		調査方法 記入不備の内容	(二段階配布方式)			(同時配布方式)		
			エラー あり	記入 漏れ	マルチ 記入	エラー あり	記入 漏れ	マルチ 記入
第1面	世帯人員		1.1	-	-	1.5	-	-
	住居の種類		1.4	1.3	0.1	1.1	1.0	0.1
	住宅の床面積 1)		16.0	14.3	1.7	17.3	15.5	1.8
	男女の別		0.7	0.7	0.0	0.5	0.5	0.1
	世帯主との続き柄		1.2	0.9	0.3	1.1	0.8	0.3
	出生の年月（元号・西暦・年月日が規定値か）		2.5	-	-	2.4	-	-
	配偶者の有無		4.3	4.2	0.1	3.6	3.5	0.1
	国籍		1.2	1.2	-	1.1	1.1	-
	外国の場合の国名 2)		3.6	3.6	-	-	-	-
	現在の住居における居住期間		1.8	1.4	0.3	1.5	1.1	0.4
	5年前の住居の所在地		4.2	4.1	0.1	4.4	4.2	0.2
	他の区・市町村の場合の区・市町村名 2)		0.1	0.1	-	0.8	0.8	-
第2面	教育（就学の有無）		10.5	10.4	0.1	9.2	9.1	0.0
	教育（最終学歴）		11.9	11.6	0.3	11.4	11.2	0.2
	就業状態		5.1	4.6	0.5	4.2	3.7	0.5
	従業地又は通学地		5.2	5.0	0.2	5.4	5.2	0.3
	他の区・市町村の場合の区・市町村名 2)		2.5	2.5	-	2.4	2.4	-
	利用交通手段		3.7	1.2	2.4	4.2	1.4	2.8
	従業上の地位		5.9	5.3	0.6	5.4	4.8	0.7
	勤め先・業主などの名称 2)		7.1	7.1	-	7.2	7.2	-
	事業の内容 2)		8.9	8.9	-	9.2	9.2	-
	本人の仕事の内容 2)		9.7	9.7	-	9.8	9.8	-
調査員欄	世帯の種類		0.8	0.6	0.2	0.7	0.6	0.1
	住宅の建て方		0.5	0.4	0.1	2.1	2.0	0.1
	共同住宅の場合の階数		0.9	0.9	-	0.4	0.4	-

1) 集計対象は調査票（甲）のみ

2) フリー記入欄における記入の有無

(3) 調査票種類別の記入状況

調査票種類別に各調査事項の記入状況をみると、記入不備のある割合が最も高い事項は、調査票甲は「住宅の床面積」、調査票乙では「教育（最終学歴）」となっている。

また、調査票種類別の全体の記入状況をみると、「教育（就学の有無）」の差が最も大きく、「教育（最終学歴）」が続いているが、いずれも調査票甲より調査票乙の記入不備割合が高い。

《表Ⅱ－12》

表Ⅱ－12 調査票種類別記入不備のある世帯及び世帯員の割合－郵送回収・調査員回収世帯

調査事項		調査票種類 記入不備の内容						(%)		
		(調査票甲)			(調査票乙)					
		エラーあり	記入漏れ	マルチ記入	エラーあり	記入漏れ	マルチ記入			
第1面	世帯人員	1.3	-	-	1.3	-	-			
	住居の種類	1.2	1.1	0.1	1.3	1.2	0.1			
	住宅の床面積 1)	16.4	14.7	1.7	-	-	-			
	男女の別	0.7	0.6	0.1	0.5	0.5	0.0			
	世帯主との続き柄	1.3	1.0	0.3	1.0	0.7	0.3			
	出生の年月（元号・西暦・年月日が規定値か）	2.4	-	-	2.5	-	-			
	配偶者の有無	3.8	3.7	0.1	4.0	4.0	0.0			
	国籍	1.3	1.3	-	1.0	1.0	-			
	外国の場合の国名 2)	3.8	3.8	-	-	-	-			
	現在の住居における居住期間	1.5	1.1	0.3	1.8	1.4	0.4			
	5年前の住居の所在地	4.9	4.7	0.1	3.8	3.7	0.2			
	他の区・市町村の場合の区・市町村名 2)	0.1	0.1	-	0.9	0.9	-			
第2面	教育（就学の有無）	8.3	8.2	0.1	11.2	11.2	0.0			
	教育（最終学歴）	10.7	10.4	0.3	12.6	12.3	0.2			
	就業状態	4.0	3.5	0.5	5.3	4.8	0.6			
	従業地又は通学地	5.1	4.9	0.2	5.6	5.4	0.2			
	他の区・市町村の場合の区・市町村名 2)	2.5	2.5	-	2.4	2.4	-			
	利用交通手段	4.2	1.6	2.6	3.7	1.0	2.7			
	従業上の地位	5.7	5.2	0.6	5.6	4.9	0.7			
	勤め先・業主などの名称 2)	6.5	6.5	-	7.8	7.8	-			
	事業の内容 2)	8.6	8.6	-	9.5	9.5	-			
	本人の仕事の内容 2)	9.1	9.1	-	10.4	10.4	-			
調査員欄	世帯の種類	0.6	0.5	0.1	0.9	0.7	0.2			
	住宅の建て方	2.1	2.0	0.1	0.6	0.6	0.1			
	共同住宅の場合の階数	0.7	0.7	-	0.5	0.5	-			

1) 集計対象は調査票（甲）のみ

2) フリー記入欄における記入の有無

(4) 「住宅の床面積の合計」の記入状況

調査票甲において調査を実施した「住宅の床面積の合計」の記入状況をみると、郵送回収及び調査員回収世帯に占める記入不備の割合が 16.5% (579 世帯) となっている。

《表Ⅱ－13》

表Ⅱ－13 「住宅の床面積の合計」記入状況、「住居の種類」別世帯数及び割合－郵送回収・調査員回収世帯
(世帯, %)

住居の種類											
「住宅の床面積の合計」の記入状況		総数	持ち家	公営の借家	都市再生機構・公社の借家	民営の借家	給与住宅	間借り	独身寮・寄宿舍	その他	不詳
(実数)	総数	3,499	2,411	104	8	756	106	27	16	28	43
	エラーなし	2,920	2,092	90	4	572	93	21	13	19	16
	エラーあり	579	319	14	4	184	13	6	3	9	27
(構成比)	総数	100.0	68.9	3.0	0.2	21.6	3.0	0.8	0.5	0.8	1.2
	エラーなし	83.5	59.8	2.6	0.1	16.3	2.7	0.6	0.4	0.5	0.5
	エラーあり	16.5	9.1	0.4	0.1	5.3	0.4	0.2	0.1	0.3	0.8

(5) 義務教育未修了者の記入状況（「教育」の記入状況）

「教育」については、調査票乙で選択肢を細分化（参考）した上で、調査を実施したところであるが、義務教育未修了者（15歳以上で中学校卒業以上の学歴のない者）については、調査票乙で調査した世帯員のうち168名となっている。

そのうち80歳以上の世帯員は163名（義務教育未修了者に占める割合97.0%）となっている。

《表Ⅱ－14》

表Ⅱ－14 年齢階級、回収方法別人員数及び割合（義務教育未修了者）

(人, %)

回収方法		義務教育未修了者（就学区分・学校区分：卒業・小学）			
年齢階級		総数	オンライン	郵送	調査員
(実数)	総数	168	67	77	24
	80歳未満	4	0	3	1
	80歳以上	163	67	73	23
	不詳	1	-	1	-
(構成比)	総数	100.0	39.9	45.8	14.3
	80歳未満	2.4	0.0	1.8	0.6
	80歳以上	97.0	39.9	43.5	13.7
	不詳	0.6	-	0.6	-

(参考)「教育」における調査票種類別の違い

(調査票甲)

11 教育

・現在 学校に在学しているかどうかについて記入したうえで 矢印に従って記入してください

・在学中の人はその学校について 卒業の人は最終卒業学校(中途退学した人はその前の卒業学校)について記入してください

・専修学校・各種学校に在学中又は卒業の人は「調査票の記入のしかた」の8ページを参照して記入してください

在学中 → 小学・中学 ○
高校・旧中 ○
短大・専修 ○
大学・大学院 ○
幼稚園 ○
保育園・保育所 ○
認定こども園 ○
乳児・その他 ○

卒業 →

未就学 →

(調査票乙)

10 教育

・現在 学校に在学しているかどうかについて記入したうえで 矢印に従って記入してください

・在学中の人はその学校について 卒業の人は最終卒業学校(中途退学した人はその前の卒業学校)について記入してください

・専修学校・各種学校に在学中又は卒業の人は「調査票の記入のしかた」の8ページを参照して記入してください

在学中 → 小 学 ○
中 学 ○
高校・旧中 ○
短大・専修 ○
大学・大学院 ○

卒業 → 幼稚園 ○
保育園・保育所 ○
認定こども園 ○
乳児・その他 ○

未就学 →

(6) 「従業地又は通学地までの利用交通手段」の記入状況（選択肢「徒歩のみ」の記入状況）

「従業地又は通学地までの利用交通手段」については、調査票甲と調査票乙で、選択肢の記載順を変更した（参考）ところであるが、「徒歩のみ」とその他の選択肢をマークした人員が占める割合（エラー率）は、調査票甲は 2.1%，調査票乙は 1.9%となっており、甲乙に大きな差は見られない。

《表Ⅱ－15》

表Ⅱ－15 調査票種類、「従業地又は通学地までの利用交通手段」の記入状況別人員数及び割合
（「徒歩のみ」にマークあり）－郵送回収・調査員回収世帯

（人，％）

調査票種類	記入状況 (実数)			(構成比)		
	「徒歩のみ」にマークあり			「徒歩のみ」にマークあり		
	総数	単一記入 (エラーなし)	マルチ記入 (エラーあり)	総数	単一記入 (エラーなし)	マルチ記入 (エラーあり)
総計	1,297	1,271	26	100.0	98.0	2.0
調査票甲	630	617	13	100.0	97.9	2.1
調査票乙	667	654	13	100.0	98.1	1.9

（参考）「従業地又は通学地までの利用交通手段」事項における調査票種類別の違い

（調査票甲）

14 従業地又は通学地
までの利用交通手段

・二つ以上の交通手段を利用している
場合(徒歩を除く)は、該当するもの
すべてに記入してください
・徒歩のみで通勤・通学している場合は
徒歩のみに記入してください

徒歩のみ	鉄道 電車	乗合 バス	自転車・ バイクの み
☐	☐	☐	☐
自転車 のみ	バイク のみ	オート バイ	その他
☐	☐	☐	☐

（調査票乙）

13 従業地又は通学地
までの利用交通手段

・二つ以上の交通手段を利用している
場合(徒歩を除く)は、該当するもの
すべてに記入してください
・徒歩のみで通勤・通学している場合は
徒歩のみに記入してください

鉄道 電車	乗合 バス	自転車・ バイクの み	自転車 のみ	バイク のみ	その他
☐	☐	☐	☐	☐	☐
自転車 のみ	バイク のみ	オート バイ	その他	徒歩 のみ	
☐	☐	☐	☐	☐	☐

(7) 「就業状態」の記入状況（少しも仕事をしていなかった人の記入状況）

「就業状態」については、調査票甲と調査票乙で、選択肢「その他」の括弧内の説明の有無を分けた（参考）ところであるが、「家事」を選択した人の割合は、調査票甲よりも調査票乙の方が 5.4 ポイント高く、一方、「その他」を選択した人の割合は調査票乙よりも調査票甲の方が 4.3 ポイント高い。

《表Ⅱ－16》

表Ⅱ－16 就業状態、調査票種類別人員数及び割合

(人, %)

就業状態		少しも仕事をしなかった人					
調査票種類		総数	仕事を休んでいた	仕事を探していた	家事	通学	その他 1)
(実数)	総数	14,042	286	521	4,354	3,792	5,089
	調査票甲	7,315	157	293	2,078	1,987	2,800
	調査票乙	6,727	129	228	2,276	1,805	2,289
(構成比)	総数	100.0	2.0	3.7	31.0	27.0	36.2
	調査票甲	100.0	2.1	4.0	28.4	27.2	38.3
	調査票乙	100.0	1.9	3.4	33.8	26.8	34.0

1) 調査票甲における表記は「その他（乳児・高齢など）」

(参考)「就業状態」事項における調査票種類別の違い

(調査票甲)

7月6日から12日
12 までの1週間に仕事をしましたか

・仕事とは 収入を伴う仕事をいい
自家営業(農業や店の仕事など)
の手伝いや内職・パートタイム・
アルバイトも含めます

・通学には 予備校・専門学校など
に通っている場合も含めます

・幼稚園又は保育所などに通って
いる場合は その他に記入してく
ださい

主に仕事

家事などのほか仕事
通学のかたわら仕事

少しも仕事をしなかった人

仕事を休んでいた 13 欄へ

仕事を探していた 記入 13 欄へ

家事 13 欄へ

通学 13 欄へ

その他 記入 13 欄へ
(乳児や高齢など)

(調査票乙)

7月6日から12日
11 までの1週間に仕事をしましたか

・仕事とは 収入を伴う仕事をいい
自家営業(農業や店の仕事など)
の手伝いや内職・パートタイム・
アルバイトも含めます

・通学には 予備校・専門学校など
に通っている場合も含めます

・幼稚園又は保育所などに通って
いる場合は その他に記入してく
ださい

主に仕事

家事などのほか仕事
通学のかたわら仕事

少しも仕事をしなかった人

仕事を休んでいた 12 欄へ

仕事を探していた 記入 12 欄へ

家事 12 欄へ

通学 12 欄へ

その他 記入 12 欄へ

2 都道府県・市区町村コードとの照合結果

「5年前の住居の所在地」の都道府県・市区町村名欄に記入のあったものについて、都道府県・市区町村コードと照合した結果をみると、照合可能の割合は99.4%となっている。

また、「従業地又は通学地」の都道府県・市区町村名欄に記入のあったものについて、都道府県・市区町村コードと照合した状況をみると、照合可能の割合は99.3%となっている。
《表Ⅱ－17》

表Ⅱ－17 調査事項（世帯員事項）、都道府県・市区町村コードの照合の可否別回答件数及び割合
－郵送回収・調査員回収世帯

照合の可否 1)		(件, %)		
調査事項		総数 2)	照合可	照合不可 3)
5年前の住居の 所在地	(実数)	1,852	1,840	12
	(構成比)	100.0	99.4	0.6
従業地又は 通学地	(実数)	3,643	3,617	26
	(構成比)	100.0	99.3	0.7

1) 当該調査項目に記入された都道府県・市区町村名を都道府県・市区町村コードと照合できたか否か。

2) 上位項目の記入内容により、格付け対象外とした場合を含まない。

3) 都道府県コードのみ格付できた（市区町村コードは格付できなかった）場合を含む。

3 産業分類・職業分類の格付状況

「勤め先・業主などの名称」及び「事業の内容」に記入のあったものについて、産業分類の格付状況をみると、格付可能の割合は98.1%となっている。

また、「仕事の内容」に記入があったものについて、職業分類の格付状況をみると、格付可能の割合は98.2%となっている。
《表Ⅱ－18》

表Ⅱ－18 調査事項（世帯員事項）、産業分類及び職業分類の格付の可否別回答件数及び割合
－郵送回収・調査員回収世帯

格付の可否 1)		(件, %)		
調査事項		総数 2)	格付可	格付不可 3)
勤め先・業主などの名 称, 事業の内容 ＜産業分類＞	(実数)	7,894	7,746	148
	(構成比)	100.0	98.1	1.9
本人の仕事の内容 ＜職業分類＞	(実数)	7,894	7,750	144
	(構成比)	100.0	98.2	1.8

1) 当該調査項目に記入された内容を産業及び職業の各分類に格付できたか否か。

2) 上位項目の記入内容により、格付け対象外とした場合を含まない。

3) 大分類のみ格付できた（小分類は格付できなかった）場合を含む。

第4 オンライン調査における記入状況

※ 平成32年国勢調査第1次試験調査におけるオンライン調査の電子調査票には、回答内容のチェック機能が実装されており、参考事項の「電話番号」を除く全ての事項を入力して初めて回答を送信できる仕組みとなっている。したがって、紙媒体の調査票にみられる記入不備（記入漏れ及びマルチ記入）は発生しない。

1 オンライン調査における都道府県・市区町村コードの照合結果

「5年前の住居の所在地」及び「従業地又は通学地」における都道府県・市区町村コードと照合した結果をみると、全て（100.0%）可能となっている。《表Ⅱ-19》

表Ⅱ-19 調査事項、都道府県・市区町村コードの照合の可否別オンライン回答件数及び割合
(件, %)

格付の可否 1)		総数 2)	格付可 格付不可 3)	
調査事項			格付可	格付不可
5年前の住居の 所在地	(実数)	2,014	2,014	-
	(構成比)	100.0	100.0	-
従業地又は 通学地	(実数)	4,494	4,494	-
	(構成比)	100.0	100.0	-

1) 当該調査項目に記入された都道府県・市区町村名を都道府県・市区町村コードに格付できたか否か。

2) 上位項目の記入内容により、格付け対象外とした場合を含まない。

3) 都道府県コードのみ格付できた（市区町村コードは格付できなかった）場合を含む。

2 オンライン調査における産業分類・職業分類の格付状況

「勤め先・業主などの名称」、「事業の内容」及び「本人の仕事の内容」における産業分類・職業分類への格付は、産業分類では98.7%、職業分類では98.8%が可能となっている。

《表Ⅱ-20》

表Ⅱ-20 調査事項、産業分類及び職業分類の格付の可否別オンライン回答件数及び割合
(件, %)

格付の可否 1)		総数 2)	格付可 格付不可 3)	
調査事項				
勤め先・業主などの名 称, 事業の内容 ＜産業分類＞	(実数)	8,166	8,058	108
	(構成比)	100.0	98.7	1.3
本人の仕事の内容 ＜職業分類＞	(実数)	8,166	8,071	95
	(構成比)	100.0	98.8	1.2

1) 当該調査項目に記入された内容を産業及び職業の各分類に格付できたか否か。

2) 上位項目の記入内容により、格付け対象外とした場合を含まない。

3) 大分類のみ格付できた（小分類は格付できなかった）場合を含む。

Ⅲ 世帯アンケートの集計結果

平成 32 年国勢調査第 1 次試験調査の世帯アンケートは，調査対象世帯（15,836 世帯）全てに実施しており，このうち 5,956 世帯から回答（回答率 37.6%）があった。

1 回答者について

回答者を男女別にみると，男性が 2,766 人（総数に占める割合 46.4%），女性が 2,912 人（同 48.9%）となっている。

また，回答者の割合を年齢階級別にみると，「60 歳代」が 22.9%と最も高く，次いで「70 歳以上」（22.7%），「50 歳代」（17.9%）などとなっており，高い年齢層において高い割合となっている。

《表Ⅲ－1》

表Ⅲ－1 年齢階級，男女別回答者数及び割合

男女 年齢階級	(実数)				(構成比1)				(構成比2)			
	総数	男	女	性別 「不詳」	総数	男	女	性別 「不詳」	総数	男	女	性別 「不詳」
総数	5,956	2,766	2,912	278	100.0	46.4	48.9	4.7	100.0	100.0	100.0	100.0
20歳未満	41	6	35	0	100.0	14.6	85.4	0.0	0.7	0.2	1.2	0.0
20歳代	274	92	182	0	100.0	33.6	66.4	0.0	4.6	3.3	6.3	0.0
30歳代	632	258	374	0	100.0	40.8	59.2	0.0	10.6	9.3	12.8	0.0
40歳代	970	435	531	4	100.0	44.8	54.7	0.4	16.3	15.7	18.2	1.4
50歳代	1,067	505	561	1	100.0	47.3	52.6	0.1	17.9	18.3	19.3	0.4
60歳代	1,362	748	608	6	100.0	54.9	44.6	0.4	22.9	27.0	20.9	2.2
70歳以上	1,353	719	618	16	100.0	53.1	45.7	1.2	22.7	26.0	21.2	5.8
年齢「不詳」	257	3	3	251	100.0	1.2	1.2	97.7	4.3	0.1	0.1	90.3

2 調査の方法について

(1) 調査書類の受け取り方法

- 調査書類の受け取り方法について、「調査員から受け取った」と回答した割合が71.1%となっており、年齢階級別にみると「70歳以上」が83.1%と最も高く、次いで「60歳代」(80.0%)、「50歳代」(72.0%)と、高い年齢層で高い割合となっている。

《表Ⅲ－2》

表Ⅲ－2 調査書類の受け取り方法、年齢階級別回答者数及び割合

(人, %)

年齢階級										
調査書類の受け取り方法		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
(実数)	総数	5,956	41	274	632	970	1,067	1,362	1,353	257
	調査員から受け取った	4,236	3	102	343	616	768	1,089	1,124	191
	郵便受けなどに入れてあった (一度も調査員に会わなかった)	1,572	36	167	272	333	278	244	193	49
	その他 ¹⁾	64	1	4	12	11	10	9	14	3
	調査書類の受け取り方法「不詳」	84	1	1	5	10	11	20	22	14
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	調査員から受け取った	71.1	7.3	37.2	54.3	63.5	72.0	80.0	83.1	74.3
	郵便受けなどに入れてあった (一度も調査員に会わなかった)	26.4	87.8	60.9	43.0	34.3	26.1	17.9	14.3	19.1
	その他 ¹⁾	1.1	2.4	1.5	1.9	1.1	0.9	0.7	1.0	1.2
	調査書類の受け取り方法「不詳」	1.4	2.4	0.4	0.8	1.0	1.0	1.5	1.6	5.4

1) 「世帯主不在のため家族が受け取った」や「大家さんより受け取った」,
「自宅の一階が会社になっており、そこへ調査書類が届けられていた」など

- 世帯人員別にみると、「調査員から受け取った」と回答した割合は「3人以上」が78.1%と最も高く、次いで「2人」(76.0%)となっており、世帯人員が複数人いると調査員から受け取る割合が高くなっている。

《表Ⅲ－3》

表Ⅲ－3 調査書類の受け取り方法、世帯人員別回答者数及び割合

(人, %)

世帯人員	(実数)					(構成比)				
	総数	1人	2人	3人以上	世帯人員「不詳」	総数	1人	2人	3人以上	世帯人員「不詳」
調査書類の受け取り方法										
総数	5,956	1,376	1,903	2,324	353	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調査員から受け取った	4,236	723	1,446	1,815	252	71.1	52.5	76.0	78.1	71.4
郵便受けなどに入れてあった (一度も調査員に会わなかった)	1,572	625	417	451	79	26.4	45.4	21.9	19.4	22.4
その他 ¹⁾	64	15	16	28	5	1.1	1.1	0.8	1.2	1.4
調査書類の受け取り方法「不詳」	84	13	24	30	17	1.4	0.9	1.3	1.3	4.8

1) 「世帯主不在のため家族が受け取った」や「大家さんより受け取った」,
「自宅の一階が会社になっており、そこへ調査書類が届けられていた」など

(2) 調査への回答方法

- 調査への回答方法を年齢階級別にみると、「インターネットで回答」と回答した割合は、「20歳代」と「40歳代」が52.6%と最も高くなっている。「紙の調査票に記入して、郵送で提出」と回答した割合は、「70歳以上」で70.0%と最も高くなっている。

《表Ⅲ－4》

回答方法を選択した理由を回答方法別にみると、インターネットで回答した世帯において、「簡単・便利と思ったから」が43.1%、「時間帯に関係なく、いつでも回答できるから」が32.9%と、他の回答方法に比べ高い割合となっている。《表Ⅲ－5》

表Ⅲ－4 回答方法、年齢階級別回答者数及び割合

		(人, %)								
年齢階級		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
(実数)	総数	5,956	41	274	632	970	1,067	1,362	1,353	257
	インターネットで回答	2,196	16	144	308	510	527	475	174	42
	紙の調査票に記入して、郵送で提出	3,110	23	109	272	377	457	766	947	159
	紙の調査票に記入して、調査員に提出	551	2	21	46	77	76	98	190	41
	その他 ¹⁾	36	0	0	2	2	1	6	23	2
	回答方法「不詳」	63	0	0	4	4	6	17	19	13
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	インターネットで回答	36.9	39.0	52.6	48.7	52.6	49.4	34.9	12.9	16.3
	紙の調査票に記入して、郵送で提出	52.2	56.1	39.8	43.0	38.9	42.8	56.2	70.0	61.9
	紙の調査票に記入して、調査員に提出	9.3	4.9	7.7	7.3	7.9	7.1	7.2	14.0	16.0
	その他 ¹⁾	0.6	0.0	0.0	0.3	0.2	0.1	0.4	1.7	0.8
	回答方法「不詳」	1.1	0.0	0.0	0.6	0.4	0.6	1.2	1.4	5.1

1) 「市役所へ直接持参して提出」など。

表Ⅲ－5 回答方法を選択した理由、回答方法別回答者の割合

		(%)					
回答方法		総数	インターネットで回答	紙の調査票に記入して、郵送で提出	紙の調査票に記入して、調査員に提出	その他 ¹⁾	回答方法「不詳」
回答方法を選択した理由(複数回答)							
総数		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
簡単・便利と思ったから		30.8	43.1	23.7	20.1	4.0	9.5
時間帯に関係なく、いつでも回答できるから		27.5	32.9	26.0	12.7	0.0	17.6
回答した内容が他者に見られる心配がないから		9.7	7.7	12.1	4.5	2.0	2.7
調査員に勧められたから		6.0	6.7	4.0	16.3	4.0	9.5
紙の調査票よりも先にインターネット回答の書類が届いたから		2.6	6.3	0.1	0.1	0.0	1.4
インターネットで回答できなかったから		12.9	0.1	20.5	24.8	36.0	10.8
インターネットで回答するのが心配(不安)だから		4.7	0.0	8.2	5.5	0.0	5.4
その他		4.4	2.2	4.6	11.3	50.0	1.4
回答方法を選択した理由「不詳」		1.5	1.0	0.7	4.7	4.0	41.9

1) 「市役所へ直接持参して提出」など。

【回答方法を選択した理由の「その他」の具体的記載内容】

- ・ インターネット回答を推奨する記載が調査書類収納封筒などにあるから。
- ・ インターネット回答の回答期限が過ぎてしまったから。

3 調査事項について

(1) 「住宅の床面積の合計」について

- 「住宅の床面積の合計」の書きやすさについてみると、41.7%が「書きにくい」と回答している。

年齢階級別にみると、「20歳未満」が66.7%と最も高く、次いで「20歳代」(56.3%)、「30歳代」(46.3%)などとなっており、低い年齢層で高い割合となっている。

《表Ⅲ－6》

書きにくい理由についてみると、「住宅の床面積がわからない(調べないとわからない)」と回答した割合が67.3%と最も高くなっている。

年齢階級別にみると、「40歳代」が77.6%と最も高く、次いで「30歳代」(76.5%)、「20歳未満」と「50歳代」(75.0%)などとなっている。また、「住宅の床面積がわからない(調べてもわからない)」という回答は、「20歳未満」(25.0%)、「20歳代」(22.1%)と、低い年齢層で高い割合となっている。

《表Ⅲ－7》

表Ⅲ－6 「住宅の床面積の合計」の書きやすさ、年齢階級別回答者数及び割合

年齢階級		(人, %)								
「住宅の床面積の合計」 の書きやすさ		総数	20歳 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	年齢 「不詳」
(実数)	総数	3,013	6	135	324	537	591	696	633	91
	書きやすい	763	0	19	61	103	145	222	189	24
	書きにくい	1,255	4	76	150	246	241	254	249	35
	どちらでもない	816	2	37	93	148	180	185	155	16
	書きやすさ「不詳」	179	0	3	20	40	25	35	40	16
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	書きやすい	25.3	0.0	14.1	18.8	19.2	24.5	31.9	29.9	26.4
	書きにくい	41.7	66.7	56.3	46.3	45.8	40.8	36.5	39.3	38.5
	どちらでもない	27.1	33.3	27.4	28.7	27.6	30.5	26.6	24.5	17.6
	書きやすさ「不詳」	5.9	0.0	2.2	6.2	7.4	4.2	5.0	6.3	17.6

※「住宅の床面積の合計」は調査票甲のみの調査事項である。

表Ⅲ－7 「住宅の床面積の合計」の書きにくい理由、年齢階級別回答者の割合

年齢階級		(%)							
「住宅の床面積の合計」の 書きにくい理由(複数回答)	総数	20歳 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	年齢 「不詳」
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅の床面積がわからない (調べないとわからない)	67.3	75.0	68.6	76.5	77.6	75.0	65.8	48.9	61.0
住宅の床面積がわからない (調べてもわからない)	12.3	25.0	22.1	16.3	13.0	12.1	6.9	11.7	17.1
説明・回答部分の文字が小さい	7.6	0.0	1.2	1.2	1.8	3.7	9.9	19.2	4.9
数字が記入しにくい	7.0	0.0	5.8	3.0	2.9	3.7	9.9	13.2	7.3
その他	5.2	0.0	1.2	3.0	4.3	5.1	7.2	6.0	7.3
書きにくい理由「不詳」	0.5	0.0	1.2	0.0	0.4	0.4	0.3	0.9	2.4

※「住宅の床面積の合計」は調査票甲のみの調査事項である。

【書きにくい理由の「その他」の具体的記載内容】

- ・ 調査事項における質問が長い。
- ・ 調査票の字が小さく赤い字であることから、高齢者にとっては読みにくい。

(2) 「教育」について

- 「教育」の記入のしやすさについてみると、「記入しにくい」と回答した割合が、調査票甲では 15.5%，調査票乙では 16.3%となっている。

また、年齢階級別にみると、調査票甲では、「70 歳以上」が 19.6%と最も高く、次いで「20 歳未満」(16.7%)、「60 歳代」(16.1%) などとなっている。一方、調査票乙では、「70 歳以上」が 19.4%と最も高く、次いで「50 歳代」(16.2%)、「60 歳代」(15.8%) などとなっており、高い年齢層で高い割合となっている。 《表Ⅲ－8》

表Ⅲ－8 調査票の種類、「教育」の記入のしやすさ、年齢階級別回答者数及び割合

		(人, %)									
年齢階級											
調査票の種類 「教育」の記入のしやすさ		総数	20歳 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	年齢 「不詳」	
(実数)	調査票甲	総数	3,013	6	135	324	537	591	696	633	91
		記入しやすい	1,300	3	72	146	220	251	323	260	25
		記入しにくい	468	1	21	28	73	82	112	124	27
		どちらでもない	997	2	39	129	204	227	207	171	18
		記入しやすさ「不詳」	248	0	3	21	40	31	54	78	21
	調査票乙	総数	2,943	35	139	308	433	476	666	720	166
		記入しやすい	1,477	19	82	142	198	244	362	367	63
		記入しにくい	480	3	14	41	61	77	105	140	39
		どちらでもない	777	12	39	112	150	131	146	144	43
		記入しやすさ「不詳」	209	1	4	13	24	24	53	69	21
(構成比)	調査票甲	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		記入しやすい	43.1	50.0	53.3	45.1	41.0	42.5	46.4	41.1	27.5
		記入しにくい	15.5	16.7	15.6	8.6	13.6	13.9	16.1	19.6	29.7
		どちらでもない	33.1	33.3	28.9	39.8	38.0	38.4	29.7	27.0	19.8
		記入しやすさ「不詳」	8.2	0.0	2.2	6.5	7.4	5.2	7.8	12.3	23.1
	調査票乙	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		記入しやすい	50.2	54.3	59.0	46.1	45.7	51.3	54.4	51.0	38.0
		記入しにくい	16.3	8.6	10.1	13.3	14.1	16.2	15.8	19.4	23.5
		どちらでもない	26.4	34.3	28.1	36.4	34.6	27.5	21.9	20.0	25.9
		記入しやすさ「不詳」	7.1	2.9	2.9	4.2	5.5	5.0	8.0	9.6	12.7

○ 「教育」の記入しにくい理由についてみると、「学歴を記入するのに抵抗がある」と回答した割合が、調査票甲では 33.0%，調査票乙では 24.5%と最も高くなっている。

年齢階級別にみると、回答数が少ない「20 歳未満」を除くと、「50 歳代」が調査票甲・乙共に「学歴を記入するのに抵抗がある」と回答した割合が最も高くなっている。

《表Ⅲ－9》

表Ⅲ－9 調査票の種類、「教育」の記入しにくい理由、年齢階級別回答者の割合

		(%)								
調査票の種類 「教育」の記入しにくい理由(複数回答)		年齢階級								
		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
調査票甲	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	学歴を記入するのに抵抗がある	33.0	100.0	24.0	31.4	36.8	44.5	34.6	23.4	26.7
	どの学校の種類にあてはまるのかわからない(最終学歴がわからない)	17.7	0.0	28.0	17.1	23.2	14.5	15.7	16.9	20.0
	他の世帯員の学歴を知らない	3.4	0.0	8.0	2.9	7.4	4.5	2.5	0.6	3.3
	学校の区分が細かい	4.8	0.0	4.0	2.9	3.2	4.5	5.7	4.5	10.0
	説明・回答部分の文字が小さい	16.7	0.0	16.0	0.0	3.2	9.1	19.5	33.1	10.0
	マークが記入しにくい	8.2	0.0	8.0	11.4	6.3	7.3	7.5	9.7	10.0
	その他	15.4	0.0	12.0	34.3	20.0	15.5	13.2	11.0	16.7
	記入しやすさ「不詳」	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.6	3.3
調査票乙	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	学歴を記入するのに抵抗がある	24.5	33.3	17.6	24.5	26.5	28.0	27.3	16.6	34.7
	どの学校の種類にあてはまるのかわからない(最終学歴がわからない)	19.0	33.3	29.4	17.0	19.3	25.2	20.7	14.9	12.2
	他の世帯員の学歴を知らない	3.1	0.0	0.0	3.8	4.8	3.7	4.0	2.3	0.0
	学校の区分が細かい	6.4	0.0	11.8	5.7	8.4	5.6	6.0	8.0	0.0
	説明・回答部分の文字が小さい	17.0	0.0	11.8	7.5	9.6	12.1	16.0	28.0	16.3
	マークが記入しにくい	11.5	33.3	17.6	15.1	9.6	6.5	10.0	12.0	20.4
	その他	17.3	0.0	11.8	26.4	21.7	15.9	14.7	17.1	14.3
	記入しやすさ「不詳」	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	1.3	1.1	2.0

【記入しにくい理由の「その他」の具体的記載内容】

- ・ 「専門学校」がどの学校区分に該当するかわからない。
- ・ 調査票の字が小さく、読みづらい。
- ・ 調査票の在学中及び卒業を選択する欄と、学校区分を選択する欄の左右が逆になったほうが見やすい。

(3) 記入しにくい調査事項（「住宅の床面積の合計」及び「教育」を除く。）

- 記入しにくい調査事項についてみると、「特にない」と回答した割合が 37.7%と最も高くなっている。次いで、「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」（11.4%），「本人の仕事の内容」（9.8%）などとなっている。 《表Ⅲ－10》

表Ⅲ－10 記入しにくい調査事項，調査票の種類別回答者の割合
（「住宅の床面積の合計」及び「教育」を除く）

調査票の種類 記入しにくい調査事項 ¹⁾ (複数回答)	(%)		
	総数	調査票甲	調査票乙
総数	100.0	100.0	100.0
世帯員の数	1.4	1.3	1.6
住居の種類	1.4	1.3	1.6
氏名及び男女の別	2.0	1.9	2.2
世帯主の続き柄	1.2	1.0	1.3
出生の年月	1.6	1.5	1.6
配偶者の有無	1.7	1.8	1.7
国籍	0.5	0.6	0.4
現在の場所に住んでいる期間	2.2	2.0	2.3
5年前はどこに住んでいたか	2.6	2.6	2.6
7月6日から12日までの 1週間に仕事をしたか	3.9	3.7	4.1
従業地又は通学地	2.3	2.3	2.4
従業地又は通学地までの 利用交通手段	1.4	1.5	1.4
勤めか自営かの別	1.6	1.6	1.7
勤め先・業主などの名称及び 事業の内容	11.4	11.6	11.3
本人の仕事の内容	9.8	10.2	9.3
特にない	37.7	38.6	36.8
記入しにくい調査事項「不詳」	17.3	16.7	18.0

1) 「住宅の床面積の合計」及び「教育」を除く。

- 記入しにくい調査事項を年齢階級別にみると、「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」と回答した割合は「50 歳代」が 15.8%と最も高く、次いで「30 歳代」と「40 歳代」で 15.4%などとなっている。また、「本人の仕事の内容」と回答した割合は「40 歳代」が 13.6%と最も高く、次いで「50 歳代」(13.5%)、「30 歳代」(11.1%) などとなっており、30～50 歳代はいずれも 10%を超す割合となっている。 《表Ⅲ－11》

表Ⅲ－11 記入しにくい調査事項、年齢階級別回答者の割合
(「住宅の床面積の合計」及び「教育」を除く)

(%)

記入しにくい調査事項 ¹⁾ (複数回答)	年齢階級								
	総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
世帯員の数	1.4	0.0	1.1	1.5	1.3	1.2	1.5	1.5	2.8
住居の種類	1.4	2.0	4.7	1.3	1.2	1.0	1.4	1.2	2.3
氏名及び男女の別	2.0	2.0	1.4	3.4	2.5	1.8	1.8	0.9	4.1
世帯主の続き柄	1.2	0.0	2.5	0.6	1.3	0.9	1.0	1.1	2.8
出生の年月	1.6	2.0	0.8	2.0	1.9	1.5	1.4	1.2	2.8
配偶者の有無	1.7	2.0	1.4	1.4	1.5	1.6	2.7	1.0	2.1
国籍	0.5	2.0	0.3	0.5	0.5	0.3	0.6	0.5	1.0
現在の場所に住んでいる期間	2.2	0.0	1.9	2.5	2.0	2.4	2.3	1.5	3.8
5年前はどこに住んでいたか	2.6	3.9	8.8	5.7	2.6	1.8	1.9	1.0	2.8
7月6日から12日までの1週間に仕事をしたか	3.9	5.9	4.1	2.8	3.2	3.3	4.5	4.1	5.6
従業地又は通学地	2.3	2.0	1.6	2.5	3.2	3.3	1.8	1.2	3.1
従業地又は通学地までの利用交通手段	1.4	2.0	1.4	1.2	1.6	2.0	1.4	0.9	1.3
勤めか自営かの別	1.6	2.0	1.9	1.2	1.7	1.7	1.9	1.1	2.6
勤め先・業主などの名称及び事業の内容	11.4	7.8	11.0	15.4	15.4	15.8	9.6	4.4	9.7
本人の仕事の内容	9.8	5.9	9.0	11.1	13.6	13.5	9.2	3.8	7.2
特にない	37.7	47.1	39.7	34.7	34.0	34.5	39.9	45.9	22.8
記入しにくい調査事項「不詳」	17.3	13.7	8.5	12.3	12.6	13.3	17.1	28.8	23.1

1) 「住宅の床面積の合計」及び「教育」を除く。

【記入しにくい理由の「その他」の具体的記載内容】

- ・ 「氏名」や「勤め先・業主などの名称及び事業の内容」などは詳細な個人情報にあたるため、記入することに抵抗がある。
- ・ 「本人の仕事の内容」は分類が細かく、一言では説明しづらい。
- ・ 「従業地又は通学地までの利用交通手段」で、徒歩のみではなく交通手段に徒歩が含まれるという場合、どの項目に該当するかわからなかった。
- ・ 「5年前はどこに住んでいたか」は、引っ越しが多いため覚えていない。

4 調査書類について

(1) 『インターネット回答利用ガイド』について

- 『インターネット回答利用ガイド』の説明は役に立ったかについてみると、「役に立った」と回答した割合が45.9%となっている。

また、年齢階級別にみると、「20歳未満」が75.6%と最も高く、次いで「20歳代」(70.1%)、「40歳代」(62.7%)などとなっており、低い年齢層で高い割合となっている。

《表Ⅲ－12》

表Ⅲ－12 『インターネット回答利用ガイド』の説明は役に立ったか、
年齢階級別回答者数及び割合

年齢階級		(人, %)								
『インターネット回答利用ガイド』の説明は役に立ったか		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
(実数)	総数	5,956	41	274	632	970	1,067	1,362	1,353	257
	役に立った	2,732	31	192	395	608	608	589	298	11
	役に立たなかった	1,619	10	77	200	282	292	369	372	17
	『インターネット回答利用ガイド』の説明は役に立ったか「不詳」	1,605	0	5	37	80	167	404	683	229
(構成比)	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	役に立った	45.9	75.6	70.1	62.5	62.7	57.0	43.2	22.0	4.3
	役に立たなかった	27.2	24.4	28.1	31.6	29.1	27.4	27.1	27.5	6.6
	『インターネット回答利用ガイド』の説明は役に立ったか「不詳」	26.9	0.0	1.8	5.9	8.2	15.7	29.7	50.5	89.1

- 『インターネット回答利用ガイド』の説明で分かりにくい内容はあったかについてみると、「特にない」と回答した割合が47.7%となっており、半数近くの世帯は分かりにくい内容はなかったと回答している。

また、「特にない」以外では、「その他」(7.5%)、「ログインID・仮パスワードについての説明」と「インターネット回答の操作方法に関する説明」(3.3%)が高い割合となっている。

《表Ⅲ－13》

表Ⅲ－13 『インターネット回答利用ガイド』の説明でわかりにくい内容はあったか、
年齢階級別回答者の割合

年齢階級		(%)								
『インターネット回答利用ガイド』の説明で分かりにくい内容はあったか(複数回答)		総数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	年齢「不詳」
総数		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ログインID・仮パスワードについての説明		3.3	0.0	2.1	3.1	4.2	3.3	3.7	3.4	0.8
インターネット回答の利点に関する説明		1.7	2.4	3.2	1.5	2.1	1.4	1.8	1.7	0.4
インターネット回答の操作方法に関する説明		3.3	0.0	1.4	2.0	2.8	3.3	4.8	3.8	0.8
国勢調査オンラインのシステム利用環境に関する説明		3.0	0.0	3.5	2.2	3.2	4.4	3.4	2.2	1.1
その他		7.5	0.0	2.8	6.3	6.1	8.9	10.2	7.4	2.3
特にない		47.7	92.7	79.4	73.8	69.0	58.1	39.5	21.2	4.2
『インターネット回答利用ガイド』の説明で分かりにくい内容はあったか「不詳」		33.4	4.9	7.4	11.1	12.6	20.5	36.7	60.4	90.5

【「その他」の具体的記載内容】

- ・ インターネット回答でなく紙の調査票で回答したため、読んでいない。

(2) 『調査票の記入のしかた』について

- 『調査票の記入のしかた』のどのページの説明を読んだかについてみると、「どのページも読んでいない（全く読んでいない）」と回答した割合が 21.8%と最も高く、次いで「調査票の記入例・記入のしかた（4～9 ページ）」(21.7%), 「事業と仕事の記入のしかた・書き方の例（10～15 ページ）」(20.1%) などとなっている。

また、年齢階級別にみると、「どのページも読んでいない（全く読んでいない）」と回答した割合は「20 歳未満」が 48.9%と最も高く、次いで「20 歳代」(35.9%), 「30 歳代」(34.8%) などとなっており、低い年齢層で高い割合となっている。《表Ⅲ－14》

表Ⅲ－14 『調査票の記入のしかた』のどのページの説明を読んだか、
年齢階級別回答者の割合

(%)

年齢階級 『調査票の記入のしかた』のどのページの 説明を読んだか(複数回答)	総数	20歳 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	年齢 「不詳」
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調査の場所・世帯の決め方 (2・3 ページ)	12.5	20.0	15.5	11.3	13.1	12.9	12.4	13.3	2.6
調査票の記入例・記入のしかた (4～9 ページ)	21.7	24.4	19.9	20.0	19.3	21.2	24.6	24.2	6.3
事業と仕事の記入のしかた・ 書き方の例(10～15 ページ)	20.1	4.4	19.6	23.5	24.1	25.8	21.9	12.2	3.0
その他	3.8	0.0	4.7	3.0	4.9	3.5	4.1	3.6	1.1
どのページも読んでいない (全く読んでいない)	21.8	48.9	35.9	34.8	30.8	24.9	17.1	11.0	1.5
『調査票の記入のしかた』のどの ページの説明を読んだか「不詳」	20.1	2.2	4.4	7.4	7.8	11.6	20.0	35.7	85.5

- 回答方法別にみると、インターネットで回答した世帯は「どのページも読んでいない（全く読んでいない）」と回答した割合が 42.7%と最も高くなっている。紙の調査票で回答した世帯は、「調査票の記入例・記入のしかた（４～９ページ）」及び「事業と仕事の記入のしかた・書き方の例（１０～１５ページ）」と回答した割合が高くなっている。

《表Ⅲ－１５》

表Ⅲ－１５ 『調査票の記入のしかた』のどのページの説明を読んだか、
回答方法別回答者の割合

回答方法 『調査票の記入のしかた』のどのページの 説明を読んだか(複数回答)	(%)					
	総数	インターネット で回答	紙の調査票に 記入して、郵送 で提出	紙の調査票に 記入して、調査 員に提出	その他 ¹⁾	回答方法 「不詳」
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
調査の場所・世帯の決め方 (2・3ページ)	12.5	9.5	14.2	13.8	2.7	12.0
調査票の記入例・記入のしかた (4～9ページ)	21.7	11.7	27.5	23.5	5.4	17.3
事業と仕事の記入のしかた・ 書き方の例(10～15ページ)	20.1	16.8	22.1	21.2	5.4	14.7
その他	3.8	6.9	2.0	2.6	24.3	1.3
どのページも読んでいない (全く読んでいない)	21.8	42.7	11.1	12.8	43.2	5.3
『調査票の記入のしかた』のどの ページの説明を読んだか「不詳」	20.1	12.4	23.1	26.1	18.9	49.3

1) 「市役所へ直接持参して提出」など。

【「その他」の具体的記載内容】

- ・ インターネット回答用書類をもらった段階で、『調査票の記入のしかた』が入って
いなかった。(二段階配布方式では紙の調査票配布時に『調査票の記入のしかた』を
配布するため)
- ・ 多少は目を通したが、情報量が多く途中で読むのをやめた。
- ・ 一通り全てのページに目を通した。
- ・ 「事業と仕事の記入のしかた」については、ホームページ上の記入例を参考にし
た。

- 回答方法と調査方法別にみると、インターネットで回答した世帯はインターネット回答用書類と『調査票の記入のしかた』を同封する同時配布方式でも、『調査票の記入のしかた』を読んでいないと回答した割合が高くなっている。 《表Ⅲ－16》

表Ⅲ－16 『調査票の記入のしかた』のどのページの説明を読んだか、
回答方法、調査方法別回答者の割合

(%)

『調査票の記入のしかた』の どのページの説明を読んだか (複数回答)		総数	調査の場所・ 世帯の決め方 (2・3ページ)	調査票の記入 例・記入のし かた(4～9 ページ)	事業と仕事の 記入のしか た・書き方の 例(10～15 ページ)	その他	どのページも 読んでいない (全く読んでい ない)	『調査票の記 入のしかた』 のどのページ の説明を読ん だか「不詳」
回答方法 調査方法								
総 数	総数	100.0	12.5	21.7	20.1	3.8	21.8	20.1
	A(二段階配布方式)	100.0	10.6	16.4	15.4	6.5	29.2	22.0
	B(同時配布方式)	100.0	13.9	25.9	23.7	1.6	16.0	18.8
	回答方法「不詳」	100.0	12.9	21.3	20.2	4.1	22.0	19.6
イ ン タ ー ネ ッ ト	総数	100.0	9.5	11.7	16.8	6.9	42.7	12.4
	A(二段階配布方式)	100.0	6.8	8.6	11.8	10.1	46.9	15.9
	B(同時配布方式)	100.0	12.8	17.2	26.3	1.7	35.4	6.7
	回答方法「不詳」	100.0	12.5	12.2	15.5	6.1	42.2	11.5
入 紙 の 調 査 票 に て 記 入	総数	100.0	14.2	27.5	22.1	2.0	11.1	23.1
	A(二段階配布方式)	100.0	14.6	24.1	18.9	3.2	12.3	26.8
	B(同時配布方式)	100.0	14.3	29.3	23.4	1.5	10.6	20.9
	回答方法「不詳」	100.0	13.1	27.4	23.4	1.8	10.4	23.9
入 紙 の 調 査 票 に て 調 査 員 記 入	総数	100.0	13.8	23.5	21.2	2.6	12.8	26.1
	A(二段階配布方式)	100.0	10.6	23.1	18.8	3.1	12.5	31.9
	B(同時配布方式)	100.0	14.6	24.3	22.2	1.9	12.3	24.7
	回答方法「不詳」	100.0	15.1	20.8	20.8	4.7	15.1	23.6
そ の 他	総数	100.0	2.7	5.4	5.4	24.3	43.2	18.9
	A(二段階配布方式)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	B(同時配布方式)	100.0	7.7	15.4	7.7	15.4	15.4	38.5
	回答方法「不詳」	100.0	0.0	0.0	5.6	38.9	55.6	0.0
「回 答 方 法 不 詳」	総数	100.0	12.0	17.3	14.7	1.3	5.3	49.3
	A(二段階配布方式)	100.0	17.1	20.0	20.0	0.0	2.9	40.0
	B(同時配布方式)	100.0	6.1	15.2	12.1	3.0	9.1	54.5
	回答方法「不詳」	100.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	71.4

Ⅳ 民間事業者による実査事務サポートの実施状況

郵送提出された調査票に係る受付・整理及び提出状況の把握

1 業務の概要

(1) 業務内容

郵送提出された調査票について、調査票の入った『郵送提出用封筒』に印字されているQRコードを読み取り、その状況を「提出状況管理システム」に登録する。

また、都道府県ごとに以下のように処理工程を2つに分けて実施する。

《図Ⅳ－1》

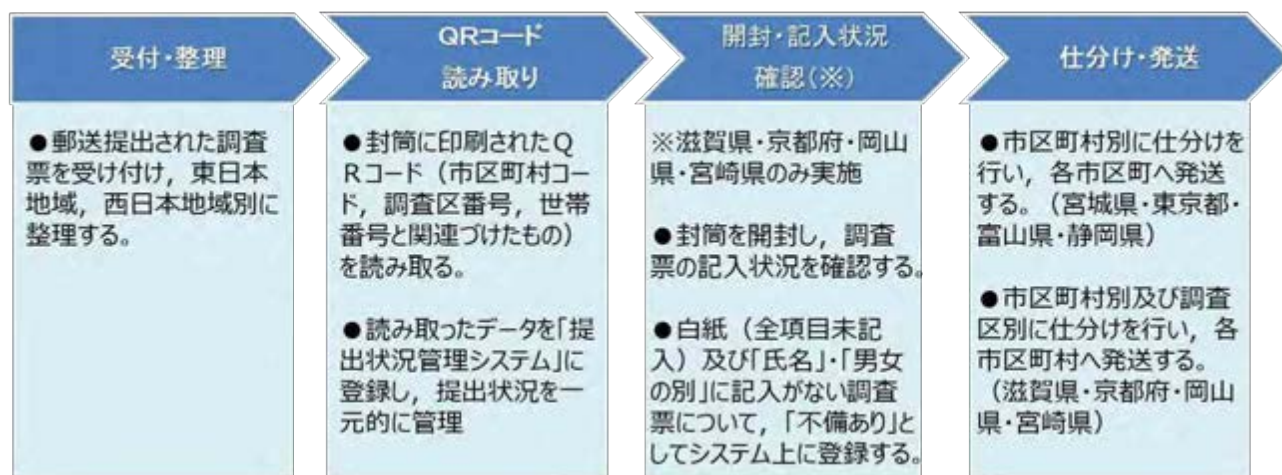
《宮城県・東京都・富山県・静岡県》 ※QRコード読み取りのみ（開封はしない）

- ① 郵送回収された郵送提出用封筒のQRコードを読み取り、「提出状況管理システム」に登録
- ② 読み取った郵送提出用封筒を市区町別に仕分けし、市区町へ送付

《滋賀県・京都府・岡山県・宮崎県》 ※平成27年調査と同様の処理工程

- ① 郵送回収された郵送提出用封筒のQRコードを読み取り、「提出状況管理システム」に登録
- ② 読み取った郵送提出用封筒を開封し、調査票が入っているかどうか等の確認
- ③ 読み取った郵送提出用封筒を市区町別、調査区別に仕分けし、市区町へ送付

図Ⅳ－1 民間サポートにおける郵送提出用封筒の処理フロー



(2) 実施期間

平成29年7月10日（月）～8月16日（水）（土日祝日を除く。）

(3) 実施体制

業務責任者1名（拠点責任者（SV）兼任）、作業スタッフ5～10名

2 受付整理及びQRコード読み取りに係る処理状況

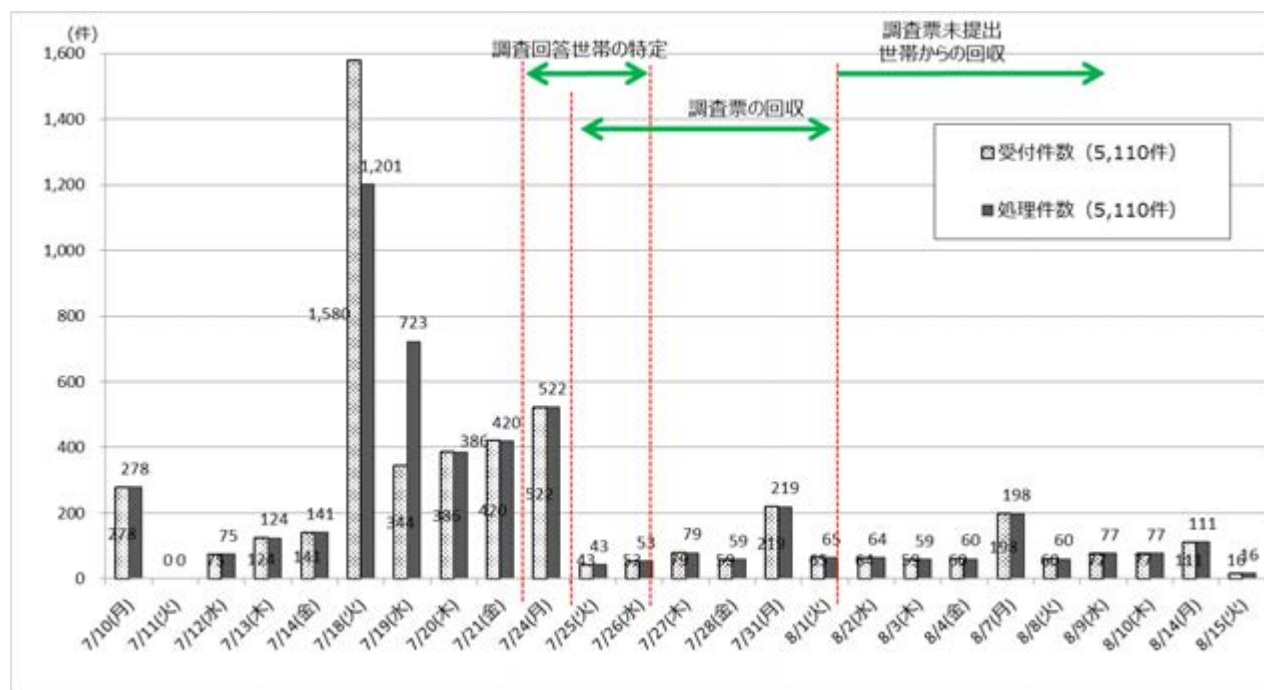
(1) 日別受取件数及び処理件数

○ 民間サポートにおける『郵送提出用封筒』受取件数は5,110件で、これを日別にみると、7月18日（火）が1,580件と最も多くなっている。7月24日（月）以降、件数が大きく減少しており、郵送提出期間内（7月13日～同19日）に提出されたものが一段落しているものと考えられる。

また、土日祝日の到着分については、連休明けに一括して受領することから、月曜日の受取件数が多くなっている。

○ 受取後、封筒表面に印字されているQRコードを読み取り、「提出状況管理システム」に提出情報を登録した件数は5,110件で、これを日別にみると、7月18日（火）が1,201件と最も多くなっている。《図Ⅳ－2》

図Ⅳ－2 民間サポートにおける郵送提出用封筒の日別受付件数及び処理件数（平日のみ）



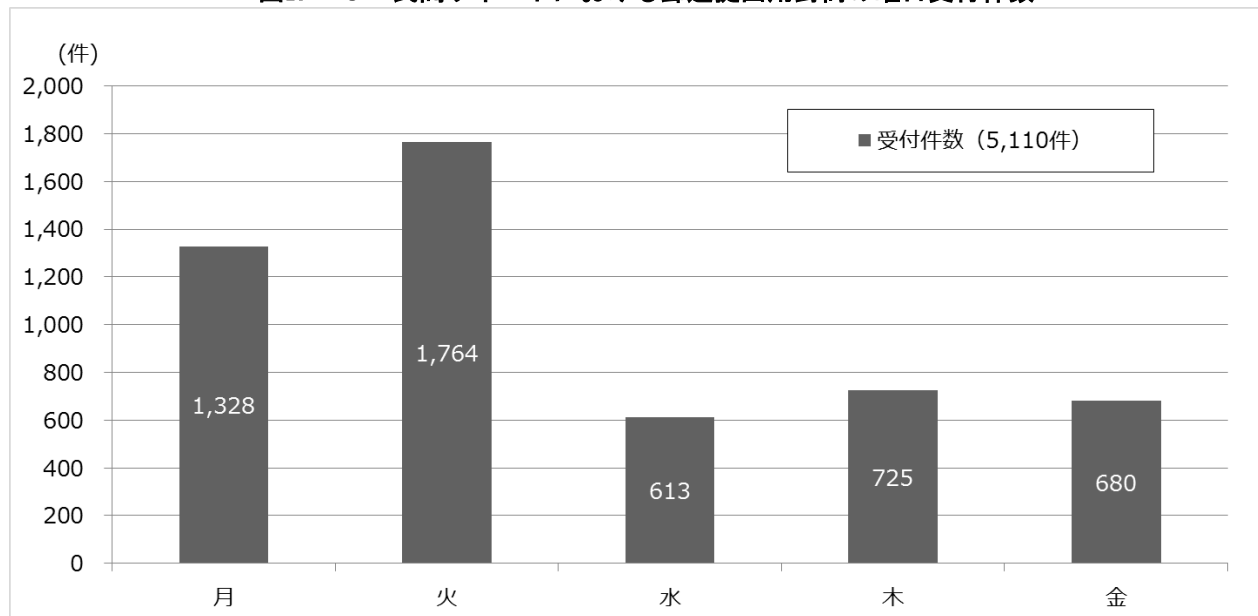
※ 受付総数（5,110件）は、民間事業者において、受付期間（7月10日～8月16日）に受領した調査票の件数であり、①市区町に直接郵送で提出された調査票を含めていない、②市区町に直接持ち込みされた調査票を含めていない、などの理由により、民間事業者での受付総数と郵送回収世帯数は必ずしも一致しない。

(2) 曜日別受付件数

受付件数を曜日別にみると、火曜日が1,764件と最も多く、次いで月曜日が1,328件と続いている。火曜日が最も多いのは、日別受付件数で7月18日（火）が1,580件と最も多くなっていることによるもので、休日（祝日）の翌日に件数が増えており、土日祝日は受付を行っていない影響もあるが、世帯が土日に調査票を記入・提出しているものと推測される。

《図Ⅳ－3》

図Ⅳ－3 民間サポートにおける郵送提出用封筒の曜日受付件数



(3) 処理工程別作業時間及び占有率比較

作業フローの各処理工程における作業時間(100通当たり)をみると、西日本では「開封・記入状況確認」が約1時間30分で最も長く、次いで「仕分け(調査区)」が約11分と続いており、東日本では「QRコード読み取り」が約4分で最も長く、次いで「仕分け(市区町)」が約3分と続いている。

西日本の作業フロー全体の占有率についてみると、東日本で実施しなかった「開封・記入状況確認」が77.0%、「仕分け(調査区)」が10.1%となっている。 《表Ⅳ－1》

表Ⅳ－1 民間サポートにおける処理工程別作業時間及び占有率

(時間, %)

作業フロー	作業発生有無		作業時間(100通当たり)		占有率	
	東日本	西日本	東日本	西日本	東日本	西日本
受付・整理	○	○	0:02:33	0:02:33	17.5	2.3
東西仕分け	○	○	0:03:13	0:03:13	22.0	2.8
QRコード読み取り	○	○	0:04:04	0:04:04	27.8	3.6
開封・記入状況確認	×	○	-	1:26:49	-	77.0
仕分け(市区町村)	○	○	0:03:31	0:03:31	24.0	3.1
仕分け(調査区)	×	○	-	0:11:23	-	10.1
発送	○	○	0:01:16	0:01:16	8.7	1.1
総計			0:14:36	1:52:48	100.0	100.0

東日本：宮城県・東京都・富山県・静岡県

西日本：滋賀県・京都府・岡山県・宮崎県

V 都府県及び市区町における個別の事務処理の実施状況

(記録表の取りまとめ結果)

第1 調査員記録表

1 調査員の基本属性について

調査員は154人で、男女別にみると男性が67人（43.5%）、女性が87人（56.5%）となっている。

また、年齢階級別にみると、60歳代が最も多く71人（46.1%）、次いで70歳以上が38人（24.7%）となっている。国勢調査経験回数別にみると、経験なしが39人（25.3%）、経験ありが115人（74.7%）となっており、経験ありの中では1回が最も多く72人（46.8%）となっている。

表V－1 調査員の基本属性

		実数	構成比(%)
総 数		154	100.0
性 別	男	67	43.5
	女	87	56.5
年 齢	20歳代	0	0.0
	30歳代	2	1.3
	40歳代	17	11.0
	50歳代	26	16.9
	60歳代	71	46.1
	70歳代以上	38	24.7
国 勢 調 査 員 経 験	国勢調査員の経験あり	115	74.7
	1 回	72	46.8
	2 回	11	7.1
	3 回	15	9.7
	4 回	7	4.6
	5 回以上	10	6.5
	国勢調査の経験なし	39	25.3

2 調査員事務打合せ会の運営方法における意見等

(調査員事務打合せ会の説明で、分かりにくかった、詳しく説明してほしいところ)

- ・ どの世帯が未提出世帯なのか判断するタイミングが難しい。
- ・ インターネット回答利用案内と調査票を別々に配布するのは混乱の原因になる。
- ・ 郵送提出用封筒が民間の会社宛になっている事に疑問を感じた。
- ・ 本調査と試験調査の目的の違いが理解しづらかった。
- ・ 説明が速すぎて、その場では事務進行全体をイメージしにくかった。
- ・ 初めての方には、もっとゆっくりと時間をかけて説明した方が良いと思いました。
- ・ 試験調査では何を重点的に調査するのか、国勢調査との違いが分からなかった。
- ・ 調査票郵送用封筒とアンケート封筒の2種類あったので、送り間違いが発生しそうだったと思った。
- ・ 「仕事の内容」を書いてもらうのが難しいと感じた。
- ・ 受取る書類が多すぎて驚いた。

3 調査区の確認、『調査区要図』及び『調査世帯一覧』の作成

(境界確認や世帯の把握、書類の作成等において難しいと感じたこと)

- ・ 会社の寮はインターホンもなく管理人もおらず、施錠されており確認もできない。
- ・ マンションのポストの並び順と建物の構造が違うため、要図への記入が難しかった。
- ・ 居住者の有無の判断が難しかった。
- ・ オートロックマンションは不在が多いので、世帯把握に時間がかかった。
- ・ A4用紙では小さすぎるので、用紙のサイズを大きくしてほしい。
- ・ ポストに名前が入っていない為、空室を調べるのが大変だった。
- ・ オーナーさん、管理人さんと信頼関係が築けると調査しやすい。
- ・ 家があっても居住しているかいないかの判断が難しい。
- ・ 建物がガレージなのか、倉庫なのか、作業場なのか、同じ世帯の離れなのか等は、聞いてみないと分からないことだが、立ち入ったことでもあり、聞き取りが難しい。
- ・ 二世帯住宅の判断が難しかった。
- ・ 調査区要図の余白が少ない。
- ・ 表札の無い家は最後まで調査票に記入できず、連絡メモの作成が大変だった。
- ・ 提示された世帯数より30軒以上増加しており、調査が大変だった。
- ・ 雨に濡れて、傘を差しながらの記入は苦労した。

4 世帯人員確認時の世帯からの質問等の状況

調査員が、世帯主又は代表者の氏名と世帯人員（男女別は聞かない）を世帯から聴取して、『調査世帯一覧』を作成することについて、世帯から質問等があった調査区の割合は42.7%となっている。

これを地域特性別にみると、世帯から質問等があった割合が最も高いのは、「単身者が居住する住宅が多い地域」（51.3%）となっている。

表V-2 世帯人員確認時の世帯からの質問等の有無

		調査区数	世帯からの質問の有無	
			なかった	あった
総 数		314	57.3	42.7
地域特性	オートロックマンション地域	80	63.8	36.3
	単身者が居住する住宅が多い地域	80	48.8	51.3
	一戸建の多い地域	76	56.6	43.4
	その他の共同住宅の多い地域	78	60.3	39.7

【主な質問等】

- ・ 名字は答えても、名前や世帯員数の回答を拒否された。
- ・ 調査票で回答するのに、なぜ調査員に世帯員数まで答える必要があるのか。
- ・ 独居女性から、治安上、1人住まいと言いたくないと言われた。
- ・ 人数に関してよりも、代表者名を伝えたがらない人が数名いた。
- ・ 総数のみでも回答を拒否された世帯があった。
- ・ 世帯主の氏名は個人情報なので言えない。
- ・ 男女別は聞かなくてよかったので、少し楽をした。
- ・ 後に記入されている人数と違う人数を言われる時がある。

5 世帯訪問の状況

○時間帯別訪問回数

世帯への訪問時間帯別の訪問世帯数をみると、全ての業務区分において、日中よりも午前中又は夜間の訪問の割合が高くなっている。

表V－3 調査員の時間帯別訪問状況（インターネット回答利用案内配布時）

		インターネット回答利用案内配布時 (6月30日～7月4日)					
		総数	訪問時間帯別世帯数				
			午前中	12時 ～ 14時	14時 ～ 16時	16時 ～ 18時	18時以降
総 数		100.0	27.3	11.5	16.0	25.0	20.3
地域 特性	オートロックマンション地域	100.0	23.9	10.6	18.1	27.2	20.3
	単身者が居住する住宅が多い地域	100.0	26.4	12.7	15.0	23.6	22.3
	一戸建の多い地域	100.0	28.2	12.4	14.4	25.4	19.6
	その他の共同住宅の多い地域	100.0	30.4	9.9	16.9	23.7	19.2

表V－4 調査員の時間帯別訪問状況（調査票の回収時）

		調査票の回収時 (7 月 25 日 ～ 8 月 1 日)					
		総数	訪問時間帯別世帯数				
			午前中	12時 ～ 14時	14時 ～ 16時	16時 ～ 18時	18時以降
総 数		100.0	24.0	9.3	10.0	25.6	31.1
地域 特性	オートロックマンション地域	100.0	26.6	9.1	7.2	23.8	33.2
	単身者が居住する住宅が多い地域	100.0	23.2	11.4	10.0	23.2	32.2
	一戸建の多い地域	100.0	16.7	7.8	12.5	34.5	28.5
	その他の共同住宅の多い地域	100.0	29.7	8.6	11.2	20.7	29.7

表V－5 調査員の時間帯別訪問状況（調査票未提出世帯からの回収時）

		調査票未提出世帯からの回収時 (8月2日～8月6日)					
		総数	訪問時間帯別世帯数				
			午前中	12時 ～ 14時	14時 ～ 16時	16時 ～ 18時	18時以降
総 数		100.0	26.2	7.4	11.6	26.1	28.7
地域 特性	オートロックマンション地域	100.0	21.7	6.6	10.2	22.9	38.6
	単身者が居住する住宅が多い地域	100.0	24.9	7.0	10.3	32.4	25.4
	一戸建の多い地域	100.0	32.1	9.9	16.0	19.8	22.2
	その他の共同住宅の多い地域	100.0	31.2	7.3	12.8	24.8	23.9

6 調査票未提出世帯からの回収時の質問等の状況

(調査票未提出世帯への回収業務において発生した世帯との問題点等について)

- ・ やっとインターホンで話せても、ポストに入れといてと言われたり、何回も訪問に対して迷惑そうだったり、ほとんど留守が多い。
- ・ 単身者の若者は平日の10時～18時は不在で土日は時間に関係なく、ほとんど不在。
- ・ 時間帯を変え、何回伺っても留守の家には督促封筒とメモをポストインするだけの一方通行で終わってしまった。
- ・ 休日に伺い「迷惑」とインターホン越しに怒鳴られる。
- ・ 居留守、協力的でない世帯ばかりなので、連絡メモで必要性を訴えた。
- ・ 回答を郵送する返事をもらおうと信用するしかない。何度も行く事はできない。

7 調査全般についての意見等

【調査用品】

- ・ 調査区(単位区)仕切りシートが単位区ごとではないので、大変使いづらい。
- ・ 記入のしかたを簡素化してほしい。少しでも枚数が減れば、調査員も軽くなり、助かります。
- ・ 青いかばんは自立するものがよい。
- ・ 暑いし見た目がよくないため、腕章はあまり使用したくない。
- ・ 連絡メモの文章例が必要。
- ・ 事前に自治会で調査のお知らせが回覧したので、全体的に協力してくれた。
- ・ 事前周知チラシを見た人は説明しやすいが、調査を知らない人に一から説明するのは、非常に困難だと感じた。
- ・ オンラインの封筒前面に情報が多すぎて、問い合わせ先の文字が小さく気がつかなかったとの指摘があった。
- ・ 居住者訪問時「居住者のみなさまへ」は非常に理解しやすく時間の短縮になった。
- ・ 郵送用封筒の宛先が役所内ではなく一般の会社名であることへの疑問。

【オンライン回答】

- ・ 「インターネット回答利用案内」配布に5日間はとてもハードでした。特に暑さ等もあり、私が体調不良の日があったのもあるのですが、せめてあと2～3日あると世帯に会えるのが増えたかなと思います。
- ・ 高齢者が多い戸建住宅団地において、ネット回答の先行案内(二段階配布方式)は、紙の調査票世帯には混乱と不満が生じた(後日配布せず、今置いて行け。アンケートだけ出した人もいる)。また、ネット回答者に紙の調査票配布は無駄である。
- ・ 年配の方には、インターネットの説明が難しい。
- ・ インターネットの回答期間をもっと延ばしてほしい。いつでもできると思っ

ている人が多い。

【調査書類の配布】

- ・ 連絡手段として自分の携帯番号をメモに残したが、変な電話がかかってきた。
- ・ 世帯員の人に面会でなくても家族間がうまくいっていない場合は、うまく伝わらず、回答が得られないことがあった。
- ・ 20～30代の世帯で新しい家の人が特に協力的でない。
- ・ 紙による（紙でしかできない人が）回答を早くしたいと望まれる人がいた。
- ・ 二段階配布で調査票を後日配布と説明しても理解してもらえなかった。

【調査票の回収】

- ・ 回収の約束をしていても、基本的に守ってくれる世帯は少ない。
- ・ 回収までの日時が長いので、待ちきれず、回収前日に郵送した世帯もあった。

【その他】

- ・ 今回は報告義務のない調査ということで、拒否世帯が多かった。
- ・ 同行者に対して、少し報酬を出して頂きたいです。
- ・ ボールペンは読みとらないということを分かっている人がまだいる。
- ・ 「教育」の在学中または卒業の記入で、高齢の人の最終卒業学校の種類が分かりづらい。
- ・ インターホンが設置してあるのに、通じていない世帯が多数ありました。

第2 調査状況等記録表

『調査状況等記録表』は、国勢調査の都道府県及び市町村事務の改善，見直し等を図ることを目的として，都府県担当職員及び市区町担当職員において，試験調査の実施状況等を記録したものである。

1 提出状況管理システムの利用状況について

提出状況管理システムの利用状況について，1日当たりの平均利用回数をみると，都府県では1.5回/日，市区町では2.2回/日となっている。

表V-6 提出状況管理システムの利用状況

1日当たりの 平均利用回数	閲覧回数				平均回数
	0～1 未満	1～2 未満	2～3 未満	3 以上	
都府県数	0	5	2	1	1.5
市区町数	1	3	7	5	2.2

また、「提出状況管理システム」により調査区（調査員）ごとの調査事務の進捗等を把握した際，市区町又は調査員に問合せや助言等を行った自治体について，都府県は7件，市区町は12件であった。

【主な助言の内容】

◎都府県から市区町

- ・ オンライン回答が無い調査区についての調査の進捗状況の確認（6件）
- ・ 誤配布フラグが立っている世帯についての対応の助言（2件）

◎市区町から調査員

- ・ オンライン回答が無い調査区，オンライン回答率の低い調査区についての調査の進捗状況の確認（11件）
- ・ 回答状況確認表の送付後も，郵送提出された世帯については，都度，電話等により調査員へ連絡（7件）
- ・ 誤配布が確認された調査区については，調査員へ確認，助言（3件）

2 調査書類の追加発行事務について

実査期間中に『インターネット回答利用ガイド』や『郵送提出用封筒』（以下「プレプリント書類」という。）の追加発行业務（発行，印刷，発送等）に費やした延べ時間数をみると，1 市区町当たりの平均延べ時間は 3.3 時間なっている。

なお，追加発行业務がなかった市区町が 1 件あった。

表 V-7 追加発行业務に係る延べ時間

実査期間中の 延べ時間	延べ時間				平均時間
	0～2 未満	2～4 未満	4～6 未満	6 以上	
市区町数	6	5	3	2	3.3

追加発行した『インターネット回答利用ガイド』や『郵送提出用封筒』の交付方法については，調査員が市（区）役所や町役場で受取を行った市区町が 7 件，調査員に直接送付した市区町が 3 件，調査員の事情に応じて複数の交付方法を併用した市区町が 5 件であった。

「提出状況管理システム」におけるプレプリント書類の追加発行业務についての意見・提案は次のとおりである。

【主な意見・提案】

- ・ プレプリント書類の追加発行にあたり，データの転送作業が必要なので，LGWAN で作業が行えるようにしてほしい。
- ・ 誤って追加発行した ID の削除機能が必要。
- ・ 今回は試験調査で調査員が少ないので追加発行に職員 1 名で対応できたが，平成 27 年国勢調査では発行依頼が一時期殺到し，職員にかなりの負荷がかかったので，可能であれば平成 32 年国勢調査では，予め対象世帯数よりかなり多めにプレプリント書類の追加発行をしておけば職員の負担はより少なくてよいのではないかと。

3 調査書類の配布誤りの状況について

調査書類の配布誤りが発生した自治体数は 10 市区町，発生しなかった自治体数は 6 市町村であった。

調査方法別に配布誤りの状況をみると，二段階配布型で配布誤りをした調査区数は 16 調査区，同時配布型で配布誤りをした調査区数は 9 調査区となっており，二段階配布型のほうが配布誤りの調査区数は多くなっている。

表 V-8-1 二段階配布型の配布誤りの状況

配布誤りした調査書類の種類	配布誤りした調査区数	調査区内の配布誤りの状況 (調査区数)		
		ほとんど	半数	一部
『インターネット回答利用ガイド』	3	2	0	1
『郵送提出用封筒』	9	6	0	3
『インターネット回答利用ガイド』 及び『郵送提出用封筒』	4	4	0	0
合 計	16	12	0	4

表 V-8-2 同時配布型の配布誤りの状況

配布誤りした調査書類の種類	配布誤りした調査区数	調査区内の配布誤りの状況 (調査区数)		
		ほとんど	半数	一部
『インターネット回答利用ガイド』	0	0	0	0
『郵送提出用封筒』	5	2	0	3
『インターネット回答利用ガイド』 及び『郵送提出用封筒』	4	2	0	2
合 計	9	4	0	5

【配布誤りの主な発生理由】

- ・ 『郵送提出用封筒』の封入誤り，見誤りや配布時の確認漏れ等（5件）
- ・ 『郵送提出用封筒』にも ID・世帯番号等が記載されていることを理解していなかった。（3件）
- ・ 配布する調査区を誤ってしまった。（2件）
- ・ 事務の内容，世帯番号の意味等を正しく理解してなかった。（2件）

4 『回答状況確認表』の伝達事務について

(1) 『回答状況確認表』の調査員への伝達方法

『回答状況確認表』の調査員への伝達方法をみると，手交，郵送，電話連絡を複数組み合わせている市区町が8件と，最も多くなっている。

表 V-9 『回答状況確認表』の調査員への伝達方法

伝達方法	手交	郵送	電話連絡	複数
市区町数	1	7	0	8

- (2) オンライン・郵送回答世帯と『調査世帯一覧』との非照合世帯について
調査員が『回答状況確認表』と『調査世帯一覧』との照合ができなかった件数（世帯数）は 12 件となっており、特定の手段は、「郵送提出用封筒の差出人欄」が 11 件と最も多く、次いで、「郵送提出調査票の回答内容」が 1 件となっている。また特定の要した延べ人時間は、5.5 人時間であった。

表 V-10 非照合世帯の特定手段

照合ができなかった件数 （世帯数）	特定手段				
	『回答状況確認表』の所在地欄の情報	オンライン回答内容	『郵送提出用封筒』の差出人欄	郵送提出調査票の回答内容	その他
12	0	0	11	1	0

【調査員が照合できなかった原因】

- ・ アパート世帯等，調査員が調査中に世帯員に一度も会えず，氏名等を確認できなかったため
- ・ 20 回以上訪問しても会えなかったため

【オンライン・郵送回答世帯の特定が最後まで行えなかった事例】

- ・ 住居の様子から生活感はあるが，本人に会えない常時不在者

- (3) オンライン・郵送回答世帯の特定事務についての意見・提案

- ・ 世帯から郵送した旨の連絡があった場合や調査員から回収状況についての照会があった場合に伝達することとなっていたが，連日，問合せ等に対応することは自治体に大きな負担となるため，当初から『回答状況確認表』の交付を二度行うようにしてほしい。
- ・ 封筒を開封し，中に調査票があることを確認してから QR コードを読み込んでほしい。
- ・ 郵送回答世帯は，何回かに分けて調査員に伝達する必要があるので，『回答状況確認表』は時点を指定して出力できるようにしてほしい。

- ・ 未回答世帯のみを表示させる機能がほしい。
- ・ 『郵送提出用封筒』のQRコードや調査区番号等がいたずらなどで塗りつぶされ、特定できない場合もあるので、別の箇所にも特定できる情報を入れてほしい。
- ・ 『調査世帯一覧』が正確に作成されていれば、世帯の特定に係るリカバリーできる可能性が高いので、『調査世帯一覧』の作成の重要と強く伝える必要があると思われる。
- ・ 重複回答を発見した場合、調査員から『調査世帯一覧』を早めに提出してもらい、重複回答なのか、配布誤りなのかを確認する必要があると感じた。

5 郵送提出調査票の処理について

市区町に直接持参又は郵送された調査票の件数は 49 件であった。

また、民間サポートから送付された調査票について、市町村が受付・整理に要した延べ時間数は、東日本で 169 人時間、西日本で 76 人時間であった。

【民間サポート業務についての意見・提案】

◎東日本

- ・ 受領した封筒を開封し世帯番号等を確認しながら整理するのは非常に時間がかかると思われる。平成 27 年国勢調査時と同様に、開封し整理された状態での受領が望ましい。
- ・ 週一ではなく、毎日送付してほしい。1 週間分まとめてくると、順番の並び替え・封筒の中身の確認、調査票の審査が届いた当日に集中してしまい、ほかの業務の作業効率に影響が出る。
- ・ 民間サポートにより、とりまとめ・システム上の郵送提出世帯の登録が行われるため、その分の事務負担が軽減される。そのため、郵送提出における民間サポートは今後も続けてほしい。
- ・ 中身を民間サポートセンターで確認せずに、早い段階で市区町村に送付されることにより、調査員が配り間違えた場合や不具合があればすぐに対応できるし、審査も早く行えるので、開封せずに仕分けをする方法がよい。
- ・ 民間サポートセンターの受付処理及び発送を行う場所を 1 か所ではなく複数箇所（ブロック別に分けるなど）に設置されることを検討されたい。

◎西日本

- ・ 郵送回答の有無（到着日）については、できるだけ早く知りたいという調査員も多く、一部の調査員へは電話連絡（調査区番号と世帯番号のみ）も並行して行った。
- ・ 本調査となれば、件数も多く処理に莫大な時間がかかることが予想される。配布誤りの特定のためには、調査票の確認が必要なので、時間がかかるようであれば、「不備」なのかどうかの確認は不必要。また、調査票枚数を封筒に赤字で記入してもらっていたが、特に確認することはなかったもので、記載は不要。
- ・ 世帯の調査票郵送提出から「提出状況管理システム」に登録されるまでのタイムラグが小さくないと感じた。
- ・ 東京のみではなく、大阪や福岡など、ブロックごとに複数の拠点を設置することはできないか。

6 調査員からの連絡・照会状況について

調査員からの連絡・照会状況についてみると、「調査方法について」が 223 件と最も多く、次いで「調査書類・用品の不足について」が 157 件となっている。

表 V－11 調査員からの連絡・紹介状況

合計	調査方法について	調査書類・用品の不足について	調査困難世帯について	オンライン回答世帯・郵送提出世帯の特定	その他
641	223	157	139	98	24

【その他の主な連絡・照会状況】

- ・ 調査世帯の把握について、二世帯住宅の捉え方や生計が同一とはどのようなものか、調査日時時点で引っ越しをしてしまう等の調査対象の捉え方
- ・ アパート、マンション空き室状況の確認方法や居住確認の方法等について
- ・ 調査票の配布誤りへの対応方法

7 世帯からの連絡・照会状況について

世帯からの連絡・照会状況についてみると、「その他」が 230 件で最も多く、次いで「調査方法について」が 195 件となっている。

表 V-12 世帯からの連絡・照会状況

合計	調査方法について	調査書類の不足連絡	調査員の回収希望の連絡	調査員の訪問日時の変更の連絡	その他
629	195	68	37	99	230

【その他の主な連絡・照会状況】

◎調査の実施に関する照会

- ・ 本当に実施されている調査なのか。
- ・ かたり調査ではないのか。
- ・ 回答の義務はあるのか。

◎オンライン回答に関する照会

- ・ 送信をしたが、送信がきちんとできているか不安。きちんと回答できたか確認したい
- ・ オンライン回答の回答修正方法について

◎調査方法（二段階配布方式）に関する照会

- ・ インターネット回答をしたのに、ポストに封筒が入っている。どうしたらいいのか。
- ・ まだインターネット回答をしていないのに、調査票がきた。どちらも回答するのか。
- ・ 紙の調査票が配布されていない。

8 調査書類の審査状況について

(1) 記入件数、記入状況件数

『調査世帯一覧』の「世帯員の数」の男女別員数の市町村審査時における記入件数をみると、4,257 件となっており、調査票の調査区番号・世帯番号の記入状況については、調査区番号及び世帯番号の両方の記入漏れが 271 件と最も多くなっている。

表 V-13 調査書類の審査状況

『調査世帯一覧』の 「世帯員の数」の男女 別員数の市町村審査 時における記入件数 (世帯数)	調査票の調査区番号・世帯番号 の記入状況件数			聞き取りを行った後に郵 送提出され、審査時に差 し替えを行った件数(世帯 数)
	調査区番 号及び世 帯番号の 両方の記 入漏れ	調査区番 号のみ記 入漏れ	世帯番号 のみ記入 漏れ	
4257	271	0	2	271

(2) 事務に要した延べ人員（人時間）

事務に要した延べ人員については、『調査世帯一覧』の「世帯員の数」の男女別員数の調査票からの転記と『調査世帯一覧』との照合事務以外の調査書類の審査に要した人員が 1,164 人/時間と最も多くなっている。

表 V-14 事務に要した延べ人員

『調査世帯一覧』の「世帯 員の数」の男女別員数の 調査票からの転記に要し た延べ人員	『調査世帯一覧』との照合 事務に要した延べ人員	左記の事務以外で調査書 類の審査に要した延べ人 員
252	534	1164

(3) 調査書類の審査事務についての意見・提案

- ・ 『調査世帯一覧』の男女別人数の合計欄を調査員に書いてもらう必要性を感じない。調査票が郵送された場合、市町村で転記するため、結局、人数を消して市町村で記入を行う。一旦消す手間を考えると、最初から書いてもらわない方が、審査をしやすい。
- ・ 「教育」の部分で、教育は子どものことと勘違いしていると思われる未記入が多く見られた。世帯に確認しづらい項目なので、照会に苦慮した。
- ・ 「教育」の未記入がかなりあった。意図的なのか単に見落としたのか不明だが、予想以上に多かった。実際、調査世帯から反発する意見も複数あり、回答を嫌がる世帯が多い。
- ・ ボールペンで記入している世帯が多かった。今回の試験調査において市区町村の審査の段階では、間違いがなければ転記しなくてよいとのことだったが、本調査の際も是非今回の方法を採用していただきたい。

- ・ 「事業の内容」、「仕事の内容」の、産業・職業分類格付けが行えるか否かの基準がわかり辛い。実際集まった調査票を審査すると、格付けが行えない大まかな記入、又は、空欄が多いため、調べるのに時間を要してしまう。

9 今回の試験調査における調査方法等に対する意見・提案

(1) 二段階配布型の調査方法について

- ・ 調査方法を段階的に分けて考える時間ができるので、インターネット、調査票の区別がつきやすく、混同しないで済む。
- ・ 既にインターネット回答した世帯からは、なぜ、また調査票が配布されるのかという問合せがあり、世帯を混乱させている。
- ・ 調査書類を2回に分けて配布するため、調査員、統計課職員の事務負担が多い（調査書類収納作業が増える。回答状況に関わらず全世帯分の書類を用意する。事務を2回に分けることの煩雑さ、誤配布の危険性増加等）。
- ・ 調査員事務打合せ会の説明だけでは調査員が覚えきれないことにより、紐付けされた調査世帯番号に『郵送提出用封筒』を渡すことが出来ず、『郵送提出用封筒』の誤配布が発生するケースがあった。
- ・ インターネット回答のあった世帯に紙の調査票を配布すると、また回答しなければならないのかとのクレームや重複回答にも繋がるので、回答世帯を特定して、調査票は配布しないほうが良い。
- ・ 高齢者世帯などインターネット回答ができない世帯が存在するため、その際に紙調査票を配布しないと「どのように回答したらよいか」、「回答しなくていいのか」、「紙の調査票を先にほしい」などという照会が多く発生し、調査への協力を得られない場合もある。
- ・ インターネット回答の利用案内を配布してから紙の調査票を回収するまでの期間が長すぎる。

(2) 同時配布型の調査方法について

- ・ どの方法で回答するか最初に選択できるので調査世帯に利便性があり、重複回答を防止できる。
- ・ 配布誤りの防止や「調査票がない」などの世帯とのトラブル防止、調査員の業務内容が簡素化される。
- ・ 調査票の記入のしかたを見ながら、インターネット回答ができるメリットがある。
- ・ オンライン回答が浸透すれば、同時配布方式でもオンライン回答率はあ

る程度見込めると考えられる。

- ・ インターネット回答，調査票回答，アンケートとすべて同時に配布するので，説明する方も聞いている方も把握する書類が多くて混同しやすい。
- ・ 紙調査票の回収時期が遅すぎる。

(3) 調査員事務について

- ・ 『調査世帯一覧』の記入に関して，世帯員数などの合計や調査区（単位区）ごとの合計欄を記入することは難しいと思われる。調査員が提出した後に郵送提出される場合を想定し，合計欄などの記入は市区町村対応とする方が効率は良い。
- ・ 世帯番号に応じたインターネット回答利用ガイドの配布が大変であると調査員から意見があり，高齢の調査員や調査に慣れていない調査員については理解が難しい。
- ・ アパートやマンションは，面会不可や居留守，調査拒否の世帯が多く，何回訪問しても会えないので調査員にかなりの負担がかかっている。
- ・ 市区町村コード，調査区番号の記入や調査書類の封入作業など，調査員の負担を軽減する方法の検討が必要と考える。

(4) 市区町事務について

- ・ 調査書類等にあらかじめ「都道府県名」や「市区町村名」などを記入しておくという事務があったが，統計局での書類作成時にあらかじめ印字するか，調査員により記入する方法が望ましい。
- ・ 今回調査員は男女別の世帯員数は世帯から聞き取らず，総数のみを聞き取ることになっていたが，結果提出された世帯一覧に空欄が多数発生し，こちらで世帯員数の補記，修正を多く行うことになってしまったため，手間であると感じた。
- ・ 郵送提出封筒は，民間業者で開封し，ある程度審査をやってもらったほうが市町村の事務負担が軽減する。
- ・ 回答状況確認表送付後に，郵送提出している世帯の提出状況を教えてほしいと毎日問い合わせしてくる調査員が複数人いて，市区町村事務の負担が大きかった。
- ・ 審査に必要な住民基本台帳の提供についての所管課との対応等に苦慮した。

10 調査書類・用品について

(1) 使いやすかった調査書類・用品

◎調査員のしごと

- ・ 調査員説明会で調査のポイントを短時間で説明するにあたり、調査員のしごとが大変使いやすい。特に、表紙の裏の「調査員の主な仕事」が分かりやすく、説明会で多く活用した。また、調査員からは1頁の書類の使用時期による色分けが分かりやすいと好評であった。
- ・ 裏表紙がカレンダーになっており、使用する主な書類と連動しており見やすかった。イラストも多く、カラー印刷のため読みやすい。
- ・ 冒頭ページに調査スケジュールが記載されているため、調査の進捗確認等非常に便利。
- ・ カラー印刷で、スケジュールがよくわかり、日付ごとに色分けされた書類が見開きで確認できた。
- ・ 表紙裏の「調査員の主な仕事」と「使用する主な書類」は非常に分かりやすかったので、次回も是非入れて欲しい。
- ・ 全体的に、調査員のすべき業務が段階ごとに載っていて分かりやすかった。調査員に一読してもらうには、このぐらいの分量が上限であるように思う。

◎下敷き（用箋挟み）

- ・ 板の材質、はさみのばねがしっかりしていて使用しやすかった。ただし、調査員がそれぞれ2調査区担当しているのに対し、下敷きが1つであったため、調査世帯一覧など書き間違えることもあり、調査区数分の枚数があると、書き間違いによる配布誤り防止に繋がると考える。
- ・ 背面の「国勢調査」の文字を見せることで、世帯の信用が得られ説明がスムーズに出来たとの意見が複数あった。
- ・ 調査員から「プラスチック素材で、特に雨が多い今夏においては濡れる心配がなく使いやすい」と報告があった。

◎調査区要図

- ・ プレプリントされており1から書く必要がなくなったため、楽だった。
- ・ 世帯番号が書きやすい縮尺であり、単位区番号の文字サイズも見やすい大きさであった。

◎インターネット回答利用ガイド

- ・ 平成27年調査ではインターネット回答操作ガイドとID・確認コードの記載された用紙が別々になっていたが、今回は1枚にまとまっていたので扱いやすかった。封筒への入れ忘れや配布誤り等の防止に有効であると感じた。

◎「インターネット回答の利用案内封筒」及び「調査書類配布用封筒」

- ・ 封入できるようテープが付いているのは調査員に好評だった。
- ・ テープが張っており、封入しやすかった。

◎調査員用手提げ袋

- ・ 他の調査の袋に比べて頑丈で良かった。
- ・ 丈夫で大きさもちょうどよく、書類の出し入れがスムーズに行え、肩にかけて運べるのが大変良い。また、ポケット収納があるので、小さなものや、筆記用具がすぐに取り出せると好評だった。

(2) 改善が必要な調査書類・用品

◎事前依頼リーフレット

- ・ 世帯から信憑性が高まり調査への協力もしやすくなるため、チラシのようなものではなく公印付きの依頼文書にしてほしいとの要望があった。
- ・ ポータルからのダウンロードではなく、調査世帯に事前に配布したいので用品として用意してほしい。また、それとは別に、調査員訪問時に1件ずつ口頭で調査の説明をするのは高齢調査員には大きな負担になるため、調査の結果が世帯の身近に感じられるメリットが書いてあるチラシを用意してほしい。

◎調査区要図

- ・ 調査区以外の部分もプレプリントされており、集合住宅等引き出して記入する場合、わかりづらく白部分としてほしかった。
- ・ ゼンリンの住宅地図と併用しないと位置確認が難しい。
- ・ 調査区の範囲が大きいと、縮尺が悪く、市町で拡大等の加工を行わないと使えない。
- ・ 白紙の場合、慣れていない調査員や高齢の調査員には、要図作成が非常に負担となる。
- ・ 公共の建物等の名称が記載されているが、建物にかかっており、しかも、濃く目立つため、調査対象世帯の番号を振ることができない。
- ・ 調査区番号、単位区番号が、建物の上に記載されており、番号を振ることができない。(空き地、又は、道路上への記載をしてほしい)

◎調査世帯一覧

- ・ 「活動中に綺麗に記入するのは困難」であり、大半の調査員が用紙のコピーに記入し、後から転記していた。下書き用の用紙があるとよいと複数の調査員から要望があった。
- ・ 各世帯の備考欄の横に、市区町村で記入できる欄があるとよい。

◎調査票

- ・ 学歴がわかり辛い。特に高齢の方の学校分類が難解。
- ・ 高齢者の中には楕円を塗りつぶすのが難しいという方もいるので、マーク式ではなくレ点でのチェック式には出来ないのか。
- ・ 昔から変化の無い同じような内容のため、マンネリ化している。
- ・ 調査票乙の第2面11問「7月6日から12日までの1週間に仕事をしましたか」について、「その他」の選択肢の下に甲調査票と同じく「(幼児や高齢など)」の一文を付けてほしい。高齢者や幼児がどこにマークすればいいかが分かりにくい。
- ・ できるだけ記述をなくすように(県名など)マーク欄を増やす。8の国籍欄は外国籍の人だけ記述するなど。
- ・ 調査票の質問項目が多い。質問内容についても、できるだけ簡潔に設計してほしい。

◎調査書類入れ(手提げ袋)

- ・ ファスナーや蓋部分がなく、調査書類が雨に濡れてしまうため雨除けにせめて蓋がほしい。
- ・ 自立せず立てかけておくことができないため、調査書類がぐちゃぐちゃになってしまう。また、調査区によっては徒歩では遠く、自転車を使用することもあるため、自転車のかごに納まるようなB4縦のサイズにしていただけると助かる。
- ・ 肩掛けであるが、素材のせいか肩に掛けていてもすぐに落ちてしまう。肩も擦れるし、調査期間中ストレスになった。
- ・ 調査書類が多く、現在の手提げ袋では持ち運びの際の負担が大きい。両手をきちんと空けられるようにリュックサック型が好ましいのではないか。

◎封筒類

- ・ 郵送提出用封筒は裏面に「調査票の提出は7月13日～7月19日の間にお願いします」と記載があったために、期限を過ぎたから回答しなくてもよいと捉える世帯が多数あった。記載内容を改めてほしい。
- ・ 郵送提出用封筒の宛先となる委託先会社名の送付先を見て、怪しい調査ではないかと不審に思う世帯が結構あった。
- ・ 郵送提出用封筒の配布誤り防止のために調査区番号・世帯番号をもっと大きく、色をつけるなどして目立つように印字してほしい。
- ・ 督促用封筒は、中に「督促状」「記入のしかた」「調査票」を入れるといっぱいで、クリップでとめようとしたが、とまらない。一回り大きな封筒ならよかった。

- ・ どの封筒においても、文字が多く読む気にならない、情報量が多すぎるといった意見が多数あった。伝えたいことを端的に記載してほしい。また、調査書類収納封筒 B に関して、一番目立つ箇所に「インターネットでご回答ください」と記載があったために、インターネット回答ができない世帯は非協力的になってしまったり回答しなくてもいいものだと解釈してしまったりしていた。
- ・ 大体一色刷りか、二色刷りでいろいろなことが書かれており、見てもらいたい部分（インターネットの回答期限など）が埋もれている。調査員さんが独自にマーカーで色付けする等対応してくれた。
- ・ 今回調査票の提出〆切日が分かり辛く、〆切日を把握できていない世帯が多かったため、封筒の目につくところに〆切日を大きく書いてほしい。
- ・ 封筒がどの書類と対応しているのか分かり辛く、黒字の調査票提出用封筒に世帯アンケートが入っていたケースが多かったため、調査票と封筒の色を一致させてほしい。
- ・ 国勢調査の文字をもっと大きくしてほしい。「インターネット回答の利用案内」の文字が一番目立っており、「国勢調査」があまり目立っていない。
- ・ 回答方法や回答期日、注意事項が細かく記載されているが、情報量がとても多くて世帯が一目見て何が書かれているか分からなくなっている。世帯の方は記載内容を全て読むわけではなく、提出日等が一目見て分からないと回答自体を拒否することもある。そのため、封筒には記載内容を厳選し、文字を大きくするなどして誰にでも重要な情報が一目で分かる構成にしていきたい。

◎腕章

- ・ きつい、汗で肌に張り付き不快、文字が伸びて読めなくなる（調査員に体格の良い男性がいた）
- ・ 伸縮性の素材ではあるが、サイズが小さすぎてきつい。
- ・ 防水加工されていないため、汗でべたついてしまったと、調査員から非常に不評だった。クリップで服に留められるものがよいのではないか。

◎督促状

- ・ 調査員から、世帯へのメッセージを記入するためのメモ欄を、三つ折りにしても見える位置に設けてほしいという要望があった。

◎調査のしごと、調査の手引

- ・ 調査員のしごとは非常に使いやすく、調査員にも好評であった。ただし、調査員事務打合せ会の内容だけで調査員が理解するのは難しく、基本的には『調査員のしごと』の内容を確認しながら、事務を行っていくため、

『調査員のしごとに』該当する『調査の手引き』の頁数を明記していただくと、より調査員に分かりやすくなると思う。

- ・ 『調査の手引き』は、記載内容が細かい。国勢調査本番において、全ての調査員が内容を理解するのは非常に難しいのではないか。

◎連絡メモ

- ・ あらかじめ印字されているメモの他に自由記述が可能な用紙も準備して欲しいとの意見があった。また、裏に張って剥がせる糊のついたメモ用紙があると便利という意見もあった。

◎その他の調査用品

- ・ インターネット利用ガイドにURLを直接入力する方法をもっとわかりやすく記載してほしい。また、質問項目がわからないため、ログイン後に家族に確認するなどして、再度ログインが必要になったり、最後のパスワード設定がわからないなどの問い合わせがあったりしたため、ログインだけでなくその後の流れもわかるものにしてほしい。

11 調査の実施状況の把握

- ・ アパートやマンションに入居する世帯については、昼間に会える世帯がほとんどなく、オートロックマンション等は居留守を使うことも多い。調査員が何度訪問しても会えないので、訪問回数が増えることによる負担増が大きい。
- ・ アパートやマンションについては、世帯に会えないので、居住確認が困難なことが多く、名前、部屋番号を聞こうとしても「個人情報なので」と断られることが多いため、世帯人数を聞くことができない。
- ・ マンションの管理人からは、管理会社から聞いていないと言われる場合があり、調査員が個々に対応することは、管理会社からの苦情も想定されるので、事前の協力依頼を強化してほしい。
- ・ 1人暮らしの高齢者は、調査員が普通に訪問するだけではなかなか回答は得られず、サポートしないと回答を得ることができないという状況が多い。
- ・ 世帯への配布書類が非常に多く、高齢の調査員が2調査区100世帯以上に配布する書類を、徒歩や自転車で運搬するのは非常に困難である。調査員が現場に持参する書類の種類及び重量の削減を検討してほしい。
- ・ オートロックマンションでは、リーフレットやポスター等による事前周知なしでは、インターホン越しで調査の趣旨を説明し理解を得ることは困難である。

12 特定共同住宅における調査の実施状況（東京都港区及び北区）

(1) 調査の実施状況

ア 実施した調査区

東京都港区及び北区の同時配布方式の調査区のうち、「オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域」の調査区（計4調査区）

イ 実施した調査区（マンション）の状況

- セキュリティが高く、コンシェルジュがいて部外者はポストまでも立ち入ることができないマンション
- 通常のオートロックマンション

ウ 協力依頼の状況

- 管理会社に協力依頼を行い、マンション内の立入りや居住者情報の提供はできないが、郵送で調査書類を送付することの了解を得た。
- 施設内の立入りや居住者情報の提供は断られたが、広報活動（ポスターの掲示）は認められた。

エ 調査の状況

- 住民基本台帳を基にして、調査区要図及び調査世帯一覧を作成し、簡易書留で調査書類一式を送付し、回答がない世帯には普通郵便で2回督促状等を送付
- 簡易書留で送付した結果、宛先不明等でそれぞれ13件（港区）、40件（北区）返送された。
- マンション内に立ち入ることができなかったため、宛先不明で返送された世帯や、書類を送付したが回答のない世帯の居住確認を行うことができなかった。

オ 地方公共団体の意見

- 調査書類を簡易書留で送付すると、受取人不在のときに郵便局預かりとなり、世帯が郵便局に取りに行くか、再送の手続きを行う必要が出てくる。調査書類は普通郵便で送付してもいいのではないかと。

(2) 調査票の回収状況

特定共同住宅の調査区に居住する世帯について、回収方法別にみると、聞き取り世帯が91世帯（当該調査区の調査対象世帯に占める割合49.7%）で最も高くなっている。世帯から直接回収のあった世帯でみると、郵送回収が61世

帯（同 33.3%）、オンライン回収が 31 世帯（同 16.9%）となっている。

また、地域特性が特定共同住宅の調査区と同一であり、かつ同時配布方式である特定共同住宅の調査区以外の東京都内の調査区の回収状況と比較すると、特定共同住宅の調査区においては郵送回収の割合が高くなっている。

《表 V－15》

表 V－15 特定調査区、回収方法別世帯数及び割合－東京都の一部地域に居住する世帯（同時配布方式）

調査区		回収方法	オートロックマンションなど民営の賃貸住宅が多い地域					(世帯, %)
			総数	回答世帯 合計	オンライン	郵送	調査員	聞き取り 調査 1)
(実数)	総数	400	205	79	118	8	195	
	特定共同住宅の調査区	183	92	31	61	-	91	
	特定共同住宅以外の調査区	217	113	48	57	8	104	
(構成比)	総数	100.0	51.3	19.8	29.5	2.0	48.8	
	特定共同住宅の調査区	100.0	50.3	16.9	33.3	-	49.7	
	特定共同住宅以外の調査区	100.0	52.1	22.1	26.3	3.7	47.9	

1) 調査票を回収することができず、聞き取り調査を行った世帯を指す。

13 平成 32 年国勢調査の実施に向けての意見・提案

◎マンション管理会社への協力依頼への強化

- ・ 単身者や学生が多い共同住宅の訪問が年々難しくなっている。
- ・ マンション・アパート管理会社に空き室情報を照会し、その情報を調査員に提供することで、調査員が円滑に調査できる環境の整備に努める必要がある。

◎同時配布方式で調査を実施してほしい

- ・ 紙調査票をほしいという世帯とのトラブル回避
- ・ 誤配布リスクの軽減、重複回答のリスク軽減
- ・ 配布書類準備事務等の調査員、市町村事務の負担軽減
- ・ 世帯への訪問回数の軽減
- ・ 世帯の方にとっての回答方法のわかりやすさと調査員事務の効率性の面でメリット

◎調査書類の見直し、内容をシンプル化

- ・ 調査票の記入のしかた等の世帯配布用の書類が多いことで、読む内容が多く面倒な調査であると世帯を認識させ、回答から遠ざけている。

- ・ 調査関係書類やインターネット回答の利用案内は事前に収納（セット）しておく、調査区番号を記入しておくことが配布誤りを防ぐことにつながる。

◎報告義務の厳格化

- ・ 調査への回答には義務があるということを全面的に周知してほしい。
- ・ 調査員から世帯へ「回答には法的な義務があります」、「違反した場合は罰則があります」という内容は伝えにくく、トラブルの原因にもなり兼ねないため、事前依頼文書へ記載したり CM・TV 放送などで周知したりする方法が望ましいと思われる。
- ・ 年々プライバシー保護意識が高まってきており、調査を重ねるごとに国勢調査の各調査項目の「不詳」件数も増加していると考えられることから、統計法上の基幹統計調査への報告義務と、調査に従事するすべての者に対して調査で知り得た秘密を保護する義務や調査票の取扱いについての厳格な規定が設けられていることを、各調査用品に明記し各調査項目へのスムーズな回答を促す広報をしていく必要がある。

◎調査困難世帯への調査方法の検討

- ・ 何度訪問しても世帯員と会うことができない世帯、空き家であるかの判断が難しい世帯に対して、近所付き合いの希薄化により、近隣への聞き取りを行うことが困難になっている。
- ・ 調査の日程を基本的には守りつつも、高齢者世帯や不在がちで、なかなか会えない世帯など回収が難しい世帯は、回収期日前であっても面会できた際に聞き取りや世帯にその場で記入してもらって回収するなど、調査員が柔軟に対応できるようになれば、調査員の世帯訪問回数が減り、負担感が減るのではないか。

第3 審査結果記録表

『審査結果記録表』は、世帯における回答状況及び市区町における審査状況を把握することを目的として、市区町の調査書類審査事務の際に作成した。

調査書類間の「世帯員数の不一致¹⁾」、調査票の各調査事項の「記入漏れ²⁾」及び市区町における補筆訂正方法の件数を回答方法別（調査員回収、郵送提出、オンライン回答及び聞き取り調査）に計上した。

1 記入漏れ等及び補筆訂正の状況（調査員回収、郵送提出及びオンライン回答）

回答方法が調査員回収、郵送提出及びオンライン回答のうち、「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項の補筆訂正の状況をみると、市区町の審査で補筆訂正した割合は30.3%となっている。

補筆訂正の方法別に内訳の割合をみると、他項目の記入状況により補筆訂正は25.2%、世帯照会の結果補筆訂正は1.7%、住民基本台帳と照合³⁾の結果補筆訂正は3.5%となっている。《表V-16》

表V-16 記入漏れ等及び補筆訂正の状況

	(件, %)					
	(実数)	(構成比)				
	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	うち市区町の審査で補筆訂正した件数	市区町の補筆訂正方法		
				他項目の記入状況により補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正
総数	16,410	100.0	30.3	25.2	1.7	3.5
調査方法						
二段階配布方式(A)	7,960	100.0	30.8	24.9	1.8	4.0
同時配布方式(B)	8,450	100.0	29.9	25.4	1.5	2.9
調査票						
甲	7,018	100.0	31.8	25.7	1.6	4.5
乙	9,392	100.0	29.2	24.8	1.7	2.7
(別掲)						
調査員回収	3,355	100.0	25.3	21.2	1.3	2.8
郵送提出	13,047	100.0	31.6	26.2	1.8	3.6
オンライン回答 ¹⁾	8	100.0	100.0	87.5	12.5	—

1) オンライン回答は調査事項の「記入漏れ」がないため「世帯員数の不一致」のみ計上した。

¹⁾市区町における審査事務の段階で、調査票の「氏名及び男女の別」に記入された人数、調査票の「世帯員の数」、『調査世帯一覧』の「世帯員の数」及び『回答状況確認表』の「世帯員の数」のうち、ひとつでも不一致の場合に世帯単位で計上した。

²⁾市区町における補筆訂正を行う前に、調査票の記入すべき欄に記入がない件数を、調査事項ごとに世帯又は世帯員単位で計上した。

³⁾調査票の「世帯主との続柄」、「出生の年月」、「配偶の関係」などに記入漏れがある世帯員について、市区町から世帯へ照会を行っても補記できない場合、住民基本台帳と照合し、氏名が一致するなど一定の条件を満たした場合に限り補記を実施した。なお、「配偶の関係」は、「世帯主との続柄」から既婚であることが確認できた場合に限り補記した。

また、上記のうち住民基本台帳を用いた補記等の対象となる調査事項についてみると、「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」を市区町の審査で補筆訂正した割合は67.0%となっている。

補筆訂正の方法別に内訳の割合をみると、他項目の記入状況により補筆訂正は38.6%，世帯照会の結果補筆訂正は4.6%，住民基本台帳と照合の結果補筆訂正は23.8%となっている。《表V－17》

**表V－17 住民基本台帳を用いた補記等の対象となる調査事項の
記入漏れ等及び補筆訂正の状況**

		(件, %)					
		(実数)	(構成比)				
		「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	うち市区町の審査で補筆訂正した件数	市区町の補筆訂正方法		
					他項目の記入状況により補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正
総数（住民基本台帳を用いた補記等の対象となる調査事項） 1)		2,389	100.0	67.0	38.6	4.6	23.8
調査方法	二段階配布方式 (A)	1,241	100.0	66.9	35.6	5.6	25.7
	同時配布方式 (B)	1,148	100.0	67.1	41.8	3.6	21.7
調査票	甲	949	100.0	70.0	33.4	3.3	33.3
	乙	1,440	100.0	65.0	42.0	5.5	17.5
(別掲)							
調査員回収		459	100.0	58.6	35.9	2.0	20.7
郵送提出		1,922	100.0	68.8	39.0	5.2	24.6
オンライン回答 2)		8	100.0	100.0	87.5	12.5	—

1) 氏名、男女の別、出生の年月、世帯主との続柄、配偶の関係、国籍の補記及び世帯員数の審査

2) オンライン回答は調査事項の「記入漏れ」がないため「世帯員数の不一致」のみ計上した。

2 各調査事項別の補筆訂正の状況（調査員回収、郵送提出及びオンライン回答）

調査員回収、郵送提出及びオンライン回答について、各調査事項別に補筆訂正の状況をみると、調査書類間の「世帯員数の不一致」の補筆訂正方法は、他項目の記入状況より補筆訂正した割合が74.2%，世帯照会の結果補筆訂正が3.9%，住民基本台帳と照合の結果補筆訂正が13.3%となっている。

調査票の各調査事項の「記入漏れ」件数は、世帯単位で計上した調査事項等では、電話番号、世帯の種類、住宅の建て方及び住宅の床面積の合計⁴で多くなっている。また、世帯員単位で計上した調査事項では、教育、従業地又は通学地、勤め先・業主などの名称及び事業の内容及び本人の仕事の内容で多くなっている。

「記入漏れ」の補筆訂正方法をみると、他項目の記入状況より補筆訂正した割合は、住宅の建て方及び世帯の種類で特に高くなっている。また、世帯照会の結果補筆訂正した割合は、現在の場所に住んでいる期間及び男女の別、住民基本台帳と照合の結果補筆訂正は、出生の年月及び氏名で高くなっている。《表V－18》

⁴住宅の床面積の合計は調査票甲のみの調査事項であり、調査票乙では調査されていない。

表Ⅴ－18 各調査事項別記入漏れ等及び補筆訂正の状況

(件, %)

		総数(回収方法)				調査員				郵送				オンライン 1)				
		(実数)		(構成比)		(実数)		(構成比)		(実数)		(構成比)		(実数)		(構成比)		
		「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	市区町の補筆訂正方法	
		他項目の記入状況より補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正	他項目の記入状況より補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正	他項目の記入状況より補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正	他項目の記入状況より補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正	他項目の記入状況より補筆訂正	世帯照会の結果補筆訂正	住民基本台帳と照合の結果補筆訂正		
世帯員数の不一致【世帯単位】		128	74.2	3.9	13.3	16	75.0	0.0	18.8	104	73.1	3.8	13.5	8	87.5	12.5	-	
記入漏れ【世帯単位】	住居の種類	93	17.2	3.2	-	21	14.3	14.3	-	72	18.1	0.0	-					
	住宅の床面積の合計 2) (延べ面積)		482	2.7	5.0	-	133	5.3	1.5	-	349	1.7	6.3	-				
	住宅の建て方	マーク	564	97.5	0.0	-	72	90.3	0.0	-	492	98.6	0.0	-				
		建物全体の階数	228	98.7	0.0	-	10	100.0	0.0	-	218	98.6	0.0	-				
		この世帯の住宅がある階	244	94.3	0.0	-	10	100.0	0.0	-	234	94.0	0.0	-				
	世帯の種類	612	95.1	0.0	-	76	97.4	0.0	-	536	94.8	0.0	-					
電話番号		1,855	0.2	0.0	-	446	0.0	0.0	-	1,409	0.3	0.0	-					
記入漏れ【世帯員単位】	氏名及び男女の別	氏名	188	14.4	6.4	42.0	44	4.5	2.3	29.5	144	17.4	7.6	45.8				
		男女の別	116	54.3	8.6	24.1	15	46.7	0.0	20.0	101	55.4	9.9	24.8				
	世帯主との続き柄		267	47.9	4.5	22.1	47	59.6	2.1	23.4	220	45.5	5.0	21.8				
	出生の年月	元号 (西暦)	388	54.1	2.8	24.0	59	55.9	0.0	13.6	329	53.8	3.3	25.8				
		年	145	1.4	6.2	51.7	31	0.0	0.0	38.7	114	1.8	7.9	55.3				
		月	154	1.3	5.8	53.2	31	0.0	0.0	41.9	123	1.6	7.3	56.1				
	配偶者の有無		754	44.6	3.6	7.2	170	43.5	4.1	7.6	584	44.9	3.4	7.0				
	国籍	マーク	222	26.1	6.3	34.7	39	20.5	0.0	48.7	183	27.3	7.7	31.7				
		国名	27	3.7	3.7	14.8	7	14.3	0.0	0.0	20	0.0	5.0	20.0				
	現在の場所に住んでいる期間		104	16.3	9.6	-	22	13.6	4.5	-	82	17.1	11.0	-				
	5年前にはどこに住んでいましたか	マーク	138	43.5	5.8	-	26	26.9	23.1	-	112	47.3	1.8	-				
		都道府県名	74	24.3	2.7	-	15	33.3	6.7	-	59	22.0	1.7	-				
		市郡名	77	14.3	2.6	-	15	33.3	6.7	-	62	9.7	1.6	-				
		区町村名	98	6.1	0.0	-	23	26.1	0.0	-	75	0.0	0.0	-				
	教育	在学中・卒業・未就学の別	1,732	23.3	1.2	-	320	27.2	1.6	-	1,412	22.5	1.1	-				
		学校・未就学の種類	1,380	2.9	0.9	-	269	6.7	0.0	-	1,111	2.0	1.2	-				
	1週間に仕事をしましたか		650	16.6	2.2	-	142	23.2	2.1	-	508	14.8	2.2	-				
	従業地又は通学地	マーク	908	34.7	1.4	-	188	33.5	2.7	-	720	35.0	1.1	-				
		都道府県名	514	33.7	1.2	-	128	38.3	0.8	-	386	32.1	1.3	-				
		市郡名	444	23.6	1.1	-	110	29.1	0.9	-	334	21.9	1.2	-				
		区町村名	418	8.4	0.5	-	101	6.9	0.0	-	317	8.8	0.6	-				
	従業地又は通学地までの利用交通手段		493	6.7	1.0	-	104	8.7	1.0	-	389	6.2	1.0	-				
	勤めか自営かの別		503	4.4	1.8	-	107	4.7	0.9	-	396	4.3	2.0	-				
	勤め先・業主などの名称及び事業の内容	勤め先・業主などの名称	689	5.5	1.2	-	154	1.3	0.6	-	535	6.7	1.3	-				
		事業の内容	877	16.3	1.3	-	205	17.6	0.5	-	672	15.9	1.5	-				
	本人の仕事の内容□		844	7.6	1.1	-	199	5.0	0.5	-	645	8.4	1.2	-				

1) オンライン回答は調査事項の「記入漏れ」がないため「世帯員数の不一致」のみ計上した。

2) 住宅の床面積の合計は調査票甲のみの調査事項であり、調査票乙では調査されていない。

3 聞き取り調査の補筆訂正の状況

聞き取り調査⁵について、住民基本台帳を用いた補記等の状況をみると、「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項を、住民基本台帳と照合の結果補筆訂正した割合は33.8%となっている。

上記のうち、調査書類間の「世帯員数の不一致」を、住民基本台帳と照合の結果補筆訂正した割合は20.8%となっている。

また、住民基本台帳による補記の対象となる調査事項についてみると、住民基本台帳と照合の結果補筆訂正した割合は、男女の別が48.2%となっている。《表V-19》

表V-19 住民基本台帳を用いた補記等の対象となる調査事項の
聞き取り調査の補筆訂正の状況

			(件, %)	
			(実数)	(構成比)
			「世帯員数の不一致」又は「記入漏れ」のある調査事項	市区町の補筆訂正方法 住民基本台帳と照合の結果補筆訂正
総数（住民基本台帳を用いた補記等の対象となる調査事項） ¹⁾			40,461	33.8
世帯員数の不一致【世帯単位】			485	20.8
【世帯員単位】	氏名及び男女の別	氏名	3,076	41.8
		男女の別	3,272	48.2
	世帯主との続き柄		4,804 ²⁾	36.3
	出生の年月	元号(西暦)	4,804 ²⁾	41.2
		年	4,804 ²⁾	41.1
		月	4,804 ²⁾	41.0
	配偶者の有無		4,804 ²⁾	18.2
	国籍	マーク	4,804 ²⁾	34.2
		国名	4,804 ²⁾	11.0

1) 氏名、男女の別、出生の年月、世帯主との続き柄、配偶の関係、国籍の補記及び世帯員数の審査

2) 調査票の集計結果による件数(聞き取り調査の世帯員数)である。

⁵世帯員の不在等の事由により調査を行うことができないときは、国勢調査員等が氏名、男女の別、世帯員の数の事項を当該世帯の世帯員以外の者に質問し、調査票に記入する聞き取り調査を行った。また、聞き取り調査の調査票についても住民基本台帳と照合を行い、一定の条件を満たした場合は補記を実施した。